

最近

中學地理教科書 外國之部上卷 目次

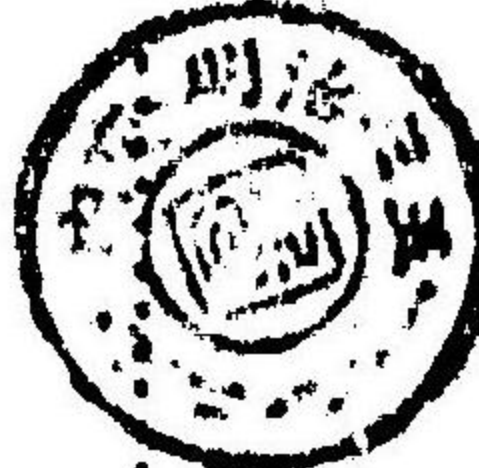


面及び區分

大洋

總論——地文地理

一 境域	二
二 沿岸	三
三 地勢	五
四 水系	八
五 氣候	九
六 物產	一
七 概說	三



目次

第二章 韓 一三

一、地文地理 一五

二、地方誌 一六

三、人文地理 二〇

第三章 清 二四

第一節 地文地理 二四

一、境域 二四

二、沿岸 二四

三、地勢 二六

四、水系 二七

五、氣候 二九

第二節 地方誌 二九

一、區劃 二九

二、支那本部 三〇

三、滿洲 三六

四、蒙古 三八

五、新疆省 三九

六、青海 四一

七、西藏 四一

第三節 人文地理 四一

一、住民 四二

二、政治 四四

三、産業 四七

四、交通 四九

第四章 アジア洲中の獨立國 五一

一、總説 五一

二、シム 五二

三、オパール、ブータン及アフガニスタン 五四

四、ペルシア及ビオマーン 五四

第五章 アジア洲中の附屬國 五五

第一節 支那に於ける占領地

一、香港及び澳門

二、旅順口及び大連灣

三、威海衛

四、膠州灣

五、廣州灣

○ 第二節 北部アジア

一、シベリア

二、中央アジア

三、カフカス

第三節 南部アジア

一、マライ諸島

二、印度支那

三、印度

第四節 西部アジア

五五

五五

五七

五八

五九

五九

六〇

六〇

七〇

七二

七三

七五

七七

八〇

九一

一、イラン諸邦

二、アラビア

三、アフガニスタン

第六章 アジア總論——人文地理

一、住民

二、邦制

三、産業

四、交通

五、概説

第二篇 オセアニア

第一章 オーストラリア聯邦

第一節 地文地理

一、境域

二、沿岸

三、地勢

九二

九二

九三

九五

九五

九七

九九

一〇〇

一〇二

一〇三

一〇三

一〇三

一〇三

一〇三

一〇三

四、水誌	104
五、氣候	105
第二節 人文地理	105
一、人民	106
二、政治	106
三、産業	107
四、交通	109
第三節 各州誌	110
一、オーストラリア本陸	110
二、タスマニア洲	111
第二章 マライシア	114
一、總説	114
二、各島誌	114
第三章 ポリネシア	114
一、總説	114

二、メラネシア	116
三、ミシロネシア	118
四、ポリネシア本部	119
五、ニューギニア	120

最近中學地理教科書 外國之部上卷 目次 終

最新中學地理教科書 外國之部上卷 挿圖版目録

韓國輪廓の輪廓	一四	× 滿州の兵卒	五七
朝鮮多島海の一部	一五	× 蒙古の沙漠	三八
京城南大門	一八	○ スベンヘダン	三九
釜山港	一九	天山南路	三九
元山及び附近	一九	× タルジヤの市街	四〇
大同江の河口	二〇	支那人の分布	四二
韓人	二二	繩足と竹の略形	四三
○ 黄河河道の變遷	二八	× バンコク王宮	五三
北京	三〇	○ 香港附近の嶺南地方	五六
× 上海港	三二	香港及び澳門	五六
廈門	三四	旅順口及び大連灣	五七
廣東及び附近	三五	威海衛 其の一	五七

× 威海衛 其の二	五八	○ 印度の鐵道	八七
膠州灣	五九	× カルカタ	八八
廣州灣	六〇	× ペナレス	八九
シベリアの火橋	六三	ボンペー	九〇
シベリア大鐵道東部	六四	○ アダム橋	九一
ウラジオストック港 其の一	六七	アアン	九三
× 同 其の二	六八	死海及び附近	九四
× シラカタウ島及び附近	七四	□ イェルサレム	九四
○ フリース氏線の圖	七五	× ニューカリ樹	一〇七
マニラ灣及び附近	七七	鴨嘴獸及びカンガル	一〇八
サイゴン	七八	× オーストラリア山地の鐵道	一〇九
シンガポール	七九	シドニー	一一一
× ヒマラヤ山系の一部	八一	マオリ人	一一三
○ 印度の地勢	八二	挿圖版出所	
ガンガ河の三角洲	八二	○ 印刷 Mill—The International Geography.	

× 田村 Stunford—Compendium of Geography and Travel.

□ 田村 Foucin—Troisième Année de Géographie.

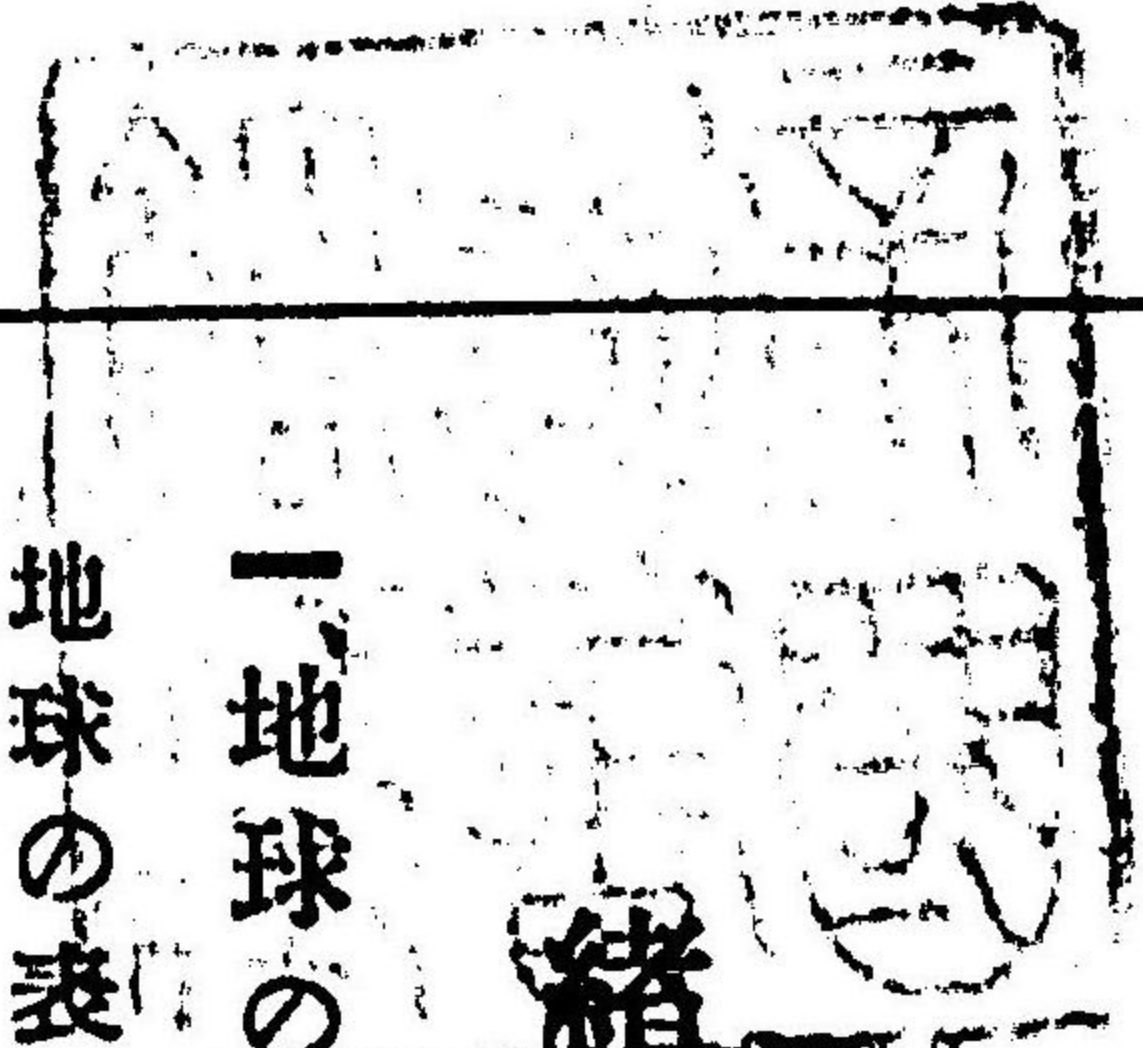
○ 田村 Sven Hedin—Through Asia.

Sven Hedin
Through Asia

最新中學地理教科書外國之部上巻附圖版目錄表

最新中學地理教科書 外國之部上巻

理學士 山上萬次郎著



緒論

一 地球の表面及び區分。

地球の表面は陸と水とより成り、空氣は一樣にこれを含む、而して陸界、水界、氣界の相接する所は、生物界の最も盛んなる部分なり。今赤道によりて地球を南北に分つときは、南北兩半球となり、一子午線によりて地球を東西に分つときは東西兩半球となる。南北兩半球は四季相反し、東西兩半球は晝夜相反す。

北極洋は大
西洋の一支
にして南極
洋は南大洋
の一部なり

二、大洲及び大洋。

地表上水陸の分布は一様ならずして、水陸面積の比は凡そ三と一との如し。陸は大小數多の部分より成れども、大別してこれを六大洲とす。アジア、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア及び南北アメリカこれなり。水は互に連れども、陸の突出により、大別してこれを四大洋とす。大平洋、印度洋、大西洋、南大洋これなり。

第一篇

アジア

第一章 アジア總論—地文地理

一、境域。

カブカス地
方はアジア
の中に入る
す

アジアは東半球の北部にあり。北は北極洋、南は印度洋、東は大平洋に面し、西は畧ほウラル山脈、ウラル河等によりて、ヨーロッパに境し、スエズ地峽及び紅海によりて、アフリカに接す。

東西の長さ最も大なる所凡そ二千五百里、南北の幅最も廣き所凡そ二千三百里、面積凡そ二百九十萬方里にして、地球上陸地全體の三分の一を占め、六大洲中最も大なり。

二、沿岸。

アジアの海岸線はこれをヨーロッパに比すれば、割合に甚だ短し。大なる半島には大平洋の側に朝鮮、カムチャツカ、印度洋の側に印度支那、印度及びアラビア、地中海の側に小アジア半島あり。島嶼は甚だ多く、其の面積全土の百分の六を

寒温熱三帶
に亘り東西
兩端時刻の
差十一時間
に及ぶ

アジアの半
島は大なる
もののみならず
して海岸線に
の出入に乏

占む。就中南東より北東に亘れる群島は、大火山脈を其の中に通じ、遂に北アメリカのアレツト諸島に連る。かく多くの島嶼及び半島あるが故に、海及び灣は特に大太平洋の側に多し。

(イ)北極洋の側。概ね屈曲に乏しく、唯オア河口のオア灣Arctic Bay、タイミル半島の東方にあるニューシベリア諸島稍名あり。

(ロ)大太平洋の側。チタナ半島はベーリング海峡を隔て、北アメリカに對し、カムチャツカ半島は其の東にベーリング海西にオホーツク海を抱く、オホーツク海の西方樺太島と本陸との間なる韃靼海峡を過ぎ、日本海を南下し、朝鮮海峡を過ぐれば、黄海に入る。黄海は北西に彎入して渤海を成し、山東遼東の二半島其の口を扼す。更らに南下すれば、揚子江以南は東海の區域に屬し、尙進んで臺灣海峡を下れば、これより支那海に入る、西方にトンキン及びシヤムの二灣あり。これよりタイ半島の南端に達すれば、此の所正に印度洋との境

はパミル高原
の世界あり
の通稱あり

なり。

(ハ)印度洋の側。大なる灣、大なる半島あれども、海岸線出入に乏し。印度半島は東にマングアル灣、西にアラビア海、アラビア半島は東にペルシア灣、西に紅海を抱く。

(ニ)地中海の側。小アジア半島は西方に突出して、黒海と地中海とを分ち、西方ダダネル海峡Dardanelles、マルマラ海、ボスボロス海峡、ギリシア群島を隔て、ヨーロッパに對す。

三、地勢。

アジア大陸の地勢を知らんと欲せば、先づパミル高原Pamirに目を注がんことを要す。此の高原はアジアの中央より少しく南に偏し、印度の北方にあり。大山脈は此の高原より北東、東南、南及び西の五方に走る。

(イ)北東に走るものは天山山系となり、アルタイ山系に連り、更にヤンロンノイス

タノボイ兩山脈に連りて、アジアの北東隅に至る。
Shanooi

(ロ) 東方に走るものは、崑崙山系となり、二分して一は祁連山陰山等の山脈を起し、興安嶺によりてヤンロノイ山脈に連り、一は南嶺及び北嶺となり、緬子江の南北に連亘し、其の脈延て本邦に連る。南嶺の西部西藏に接する邊は、山脈南北に竝走して、橫斷山脈の名あり。

(ハ) 南東に走るものは、有名なるヒマラヤ山系にして、其の東部は橫斷山脈に接す。
Himalaya

(ニ) 南方に走るものは、スリヤン山脈にして、印度の北西方を限ざる。
Suliman

(ホ) 西方に走るものは、ヒンヅークシ山脈にして、エルプールズ山脈に連り、小アジアの西端に終り、カフカス山脈は黒海と黒海との間に横はりて、これと竝走す。
Hindu Kush *Elburz* *Caucasus*

斯くの如く、パミル高原より山脈五方に走り、アジアの地勢隨て左の五部に分る。

(イ) 北部アジア。 アルタイ及びヒンヅークシ兩山脈以北の地にして、シベリアの大部を成し、低平なる原野多し。

(ロ) 中央アジア。 アルタイ・ヒマラヤ兩山系の間は中央アジア高原にして、ゴビ沙漠は北部に、西藏高原は南部にありて、中間に塔里木・河低地を挟む。中央アジアの東境は即ち興安嶺より橫斷山脈を含める支那本部の西部によりて成る、これより以東は即ち東部アジアに屬す。
Ferghana

(ハ) 東部アジア。 此の區域は本邦・朝鮮・滿洲・支那本部を含むし、山地も多けれど、其の中央に支那北部大平原あり。

(ニ) 南部アジア。 ヒマラヤ山系以南スリヤン山脈以東を含み、南部にデカン高原及び印度大平原あり。
Deccan

(ホ) 西部アジア。 スリヤン山脈以西ヒンヅークシ山脈以南

漠にして、印度の一部には世界最多の雨量あり。東部及び南部アジアは季節風(信風)の影響を受け、東部アジアは大風の衝に當れり。今各部に分ちて、これを左に畧説すべし。

(イ) 北部アジア。南方は山脈を控へて熱風を受けず、北方は打ち開らけて寒風に犯さるゝが故に一般に地下深く凍結し、盛夏にも表面のみ融解す。且つ極北部を除き概ね大陸氣候を有し、寒暑共に甚し。

(ロ) 中央アジア。概ね山脈にて隔まれ、大陸の内部に位するが故に大陸氣候を有し、大部は乾燥無雨の沙漠地なり。

(ハ) 東部アジア。沿岸の一部及び内地は大陸氣候を有すれども、沿岸の大部は海洋氣候を有し、且つ季節風の影響を受け、大風の衝に當る。但し北アメリカ及びヨーロッパ西岸の同緯度地に比しては、海流の關係により、氣温遙かに低し。

(ニ) 南部アジア。概ね熱帯氣候を有し、雨量甚だ多し。又中央アジア夏季

氣温の劇變は印度洋に季節風を起し、南部アローアは其の衝に當り、其の一部には世界最多の雨量あり。

(*) 西部アローア。一部は海洋の影響を受け、氣候温和なれども、一般に高原にして、沿岸に山脈あるが故に、大部は大陸氣候を有し、特に夏季の熱はアフリカに匹敵す。

六、物産。

アジアは地勢の變化に富み、氣候多様なれば、物産も亦た甚だ多し。北部アジアの凍土帯は殆んど不毛にして、中央及び西部アジアの大部は草原と沙漠とより成れども、季節風を受け雨量に富める南部及び東部アジアは、植物界の天産甚だ豊かにして、米は其の特産なり。就中本邦及び清國には茶及び桑、アジア南東部には丁子胡椒等の香料、印度に

は藍綿、阿片等あり。又動物には北部アジアに馴鹿、極熊及び諸種の毛皮獸、南部アジアに虎、豹、象及び大蛇、中央アジアに羊及び略駝甚だ多し。礦物には北部アジアの金、東部アジアの石炭、南部アジアの寶石等皆名あり。

七、概説。

- アジアは世界第一の高原を有す。
- アジアは世界第一の平原を有す。
- アジアは世界第一の高山を有す。
- アジアは世界第一の半島を有す。
- アジアは最低の窪地(死海沿岸)を有す。
- アジアは最大の内地流域を有す。
- 最大の鹹湖あり(カスピ海)。

最暖の海水あり(紅海)。

アジア南西部の高温は、熱の赤道たるサハラ沙漠Saharaに匹敵す。

アジア北部の低温は、世界の寒極たる北アメリカ多島海に伯仲す。

地球上最大なる無雨區域は、中央アジアに在り。

地球上雨量最多の地は、南部アジアに在り。

地文地理上アジアは大陸中の大陸なり。

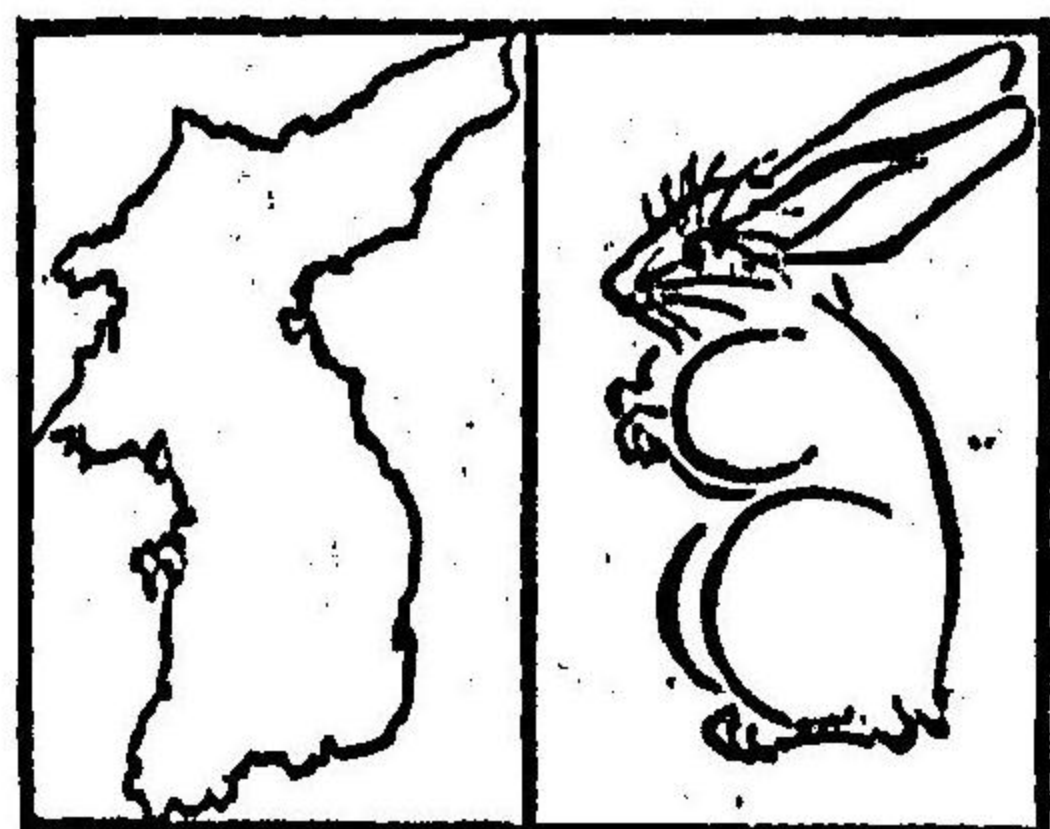
第二章

韓

一、地文地理。

對馬の北端より三十里

(イ) 境域 韓國は又これを朝鮮と稱す、東部アジアの一半島國にして、我が國の西方に當り、對馬よりこれを望み得べし。全體の輪廓は、恰も兎の遼東半島に向て飛ばんとするに似たり、(恩師小藤博士による)。東は日本海、西は黃海、南は



朝鮮國輪廓の譬喩

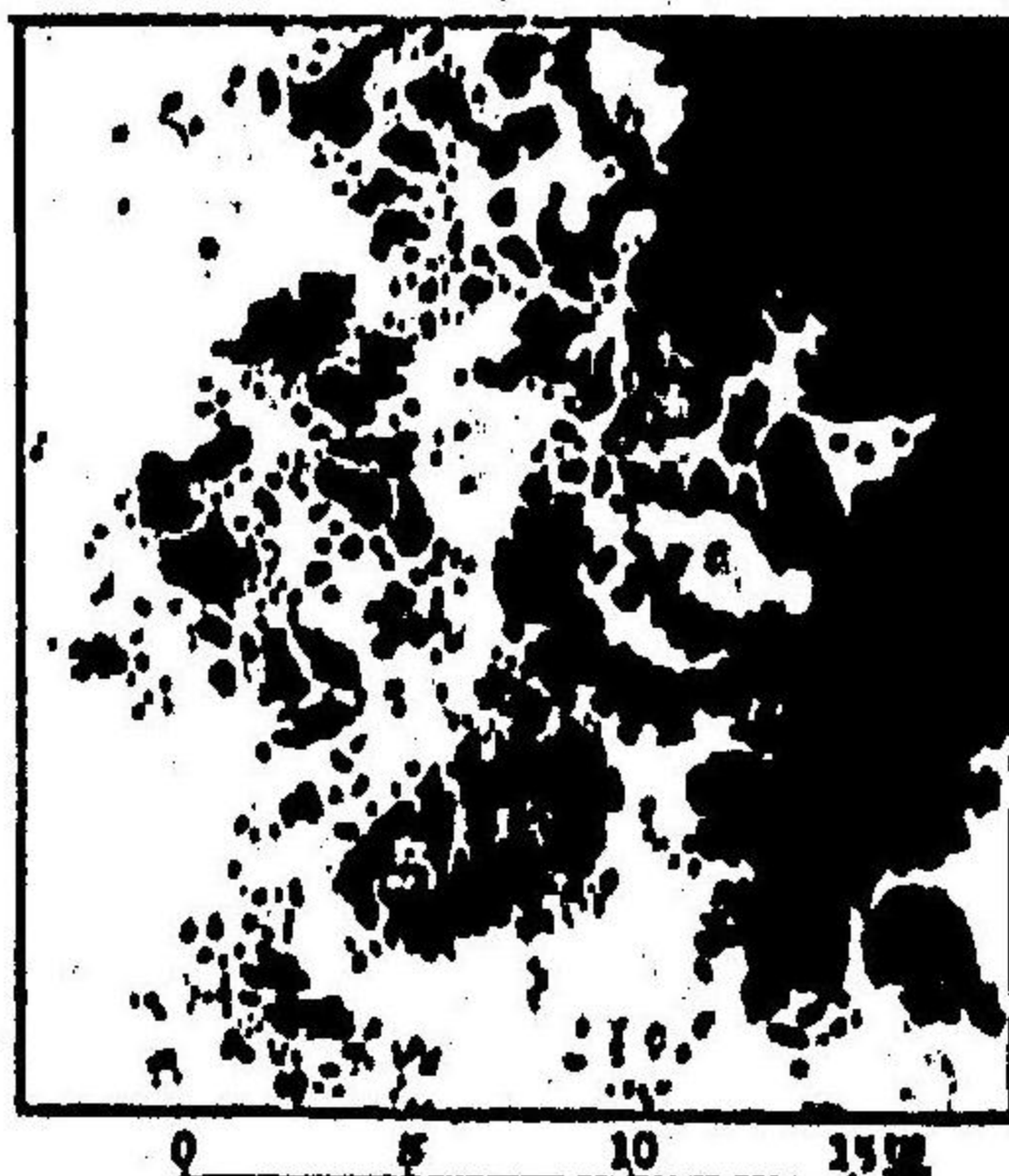
朝鮮海峽に臨み、北は鴨綠江、長白山脈及び圖們江の一部を以て、滿洲及びシベリアに接す。面積凡そ一萬三千方里、我が本州より少しく小なり。南北凡そ二百五十里、東西凡そ六十里あり。

(ロ) 沿岸 東岸は出入に乏しく、元山を除き良港なけれども、西岸及び南岸は島嶼羅列し、港灣極めて多し。特に南西岸の島に富めること、世界に其の比少く、稱してこれを朝鮮

元山に於ては、河口に於ては、三尺三寸

高さ凡そ八千尺、頂上に噴火口あり

活火山なく、温泉所々に湧出す



朝鮮多島海の一部

多島海と云ふ。又潮の升降差、東岸に於ては甚だ小なれども、西岸に於ては最も大にして、東洋第一に位す。

(ハ) 地勢 不成山脈(長白山脈)南

西より北東に走りて、國の北境を限り、最高點白頭山は畧陸境上に位し、國の北部にはこれに平行せる山列ありて、諸大河の分水線を成す。南部には南北に走れる數多の山列あり、大白山脈は其の重なるものにして、金剛山其の中に位し、其の主軸は東側に偏し、隨て南韓の地勢は東方に峻にして、西方に緩かなり。諸大河の河口附近を除き、國中到處所山多し。

大同江・大
同江・漢
洛東江・漢
江・錦江

(二)水系 地勢の結果として、大河は北部に於ては兩側にこれを見れども、南部に於ては東側に少く、西側に多し。要するに面積に比しては、韓國は大河に富めるものと云ふべし。

(ホ)氣候 一般に大陸氣候にして、冬季は河水氷結す。唯南部は稍溫和にして、海岸附近にては、河水多くは氷結せず。但し冬季は三寒四暖と稱する氣候の變換と、溫突と稱する暖房の法とにより、稍凌ぎ易し。

(ヘ)天産 穀物能く登り、特に南部は米及び大豆の産に富む。又茶を缺ぐも、人參の特産あり。動物には虎豹多く、鶴も亦た稀れならず。礦物には金最も名あり。

二、地方誌。

(イ)區劃 此の國は行政上も八道に分ちしが、今は左の十三道に分つ。

京畿道	江原道	忠清北道	忠清南道	全羅北道
全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	咸鏡北道	咸鏡南道
平安北道	平安南道	黃海道		

(ロ)中部(京畿、黃海、江原) 京畿道は首府の在る所故に此の名あり、漢江これを貫流し、水利大なり。

京城は本名を漢城と稱す、街路は不規則にして狭く、頗ぶる不潔を極め、周圍は繞ぐらすに城壁を以てし、我が居留地には公使館及び領事館の設けあり。濟物浦(仁川)は京城の咽喉にして、月尾島其の前に横はり、韓國第一の開港場にして、金米生牛皮を輸出し、我が領事館の設けあり。咸鏡道の沿岸は明太魚の捕獲盛んにして、黃海道沿海は大同江の

市内の電氣
鐵道、京仁
鐵道、漢江
の汽船によ
り交通の便
あり

牙山、成歎
豐島は日清
戦役の故地

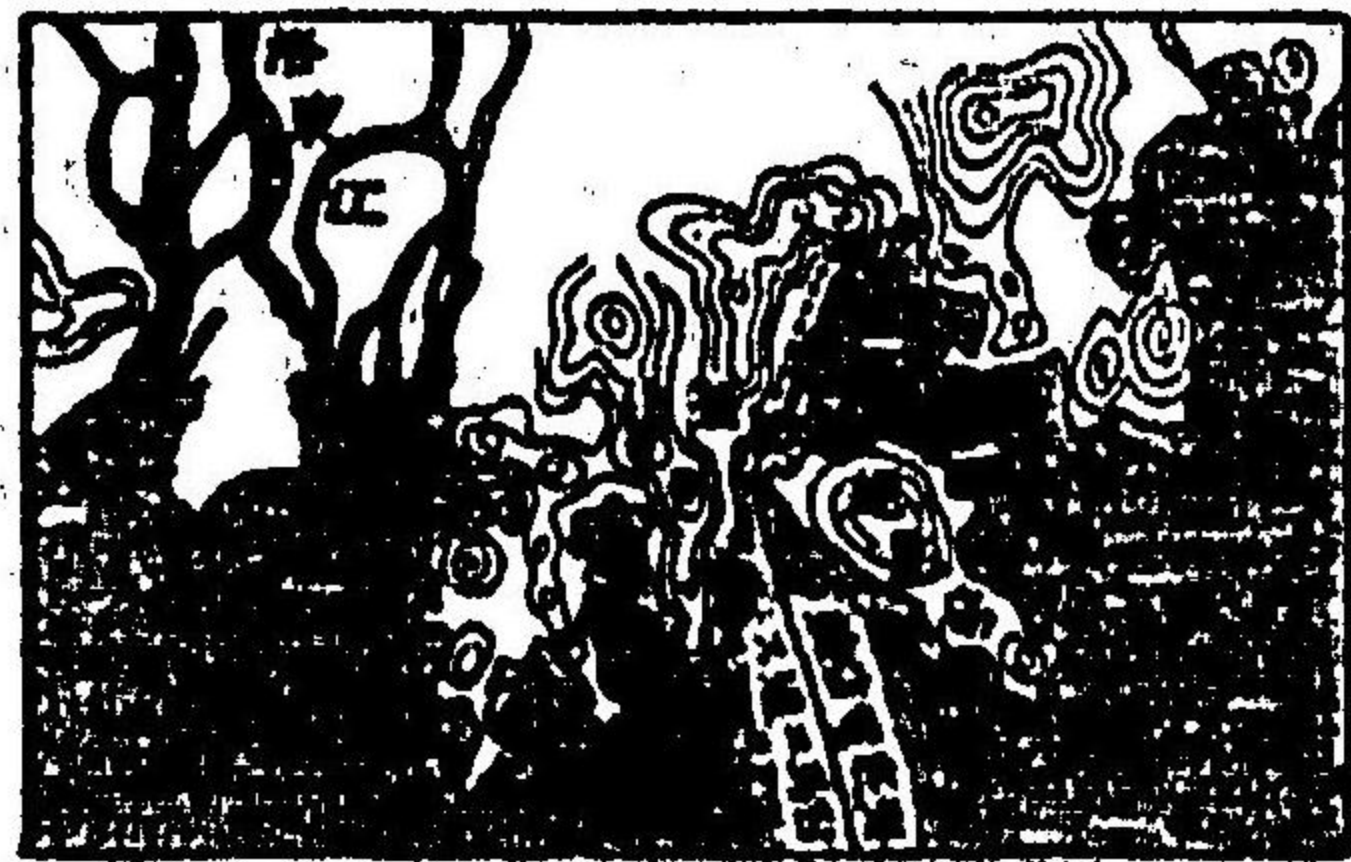


京 城 南 大 門

泥流の爲めに黄色を呈す。
 (ハ)南部(忠清全羅慶尙)と
 れ等の地方は三南と稱せら
 れ、農産甚だ豊かにして、良港
 頗ぶる多し、軍事及び外交上
 極めて大切なる位置を占め、
 群山浦、木浦、馬山浦、釜山浦の
 開港場、Keijo, Kiangpoo, Pusan, Mokpo 濟州、巨文、巨濟、南海等
 の島嶼あり。就中馬山浦は
 朝鮮海峡及び韓國南部に對
 し、最も重要なる位置を占め、
 我が領事館の設けあり。釜



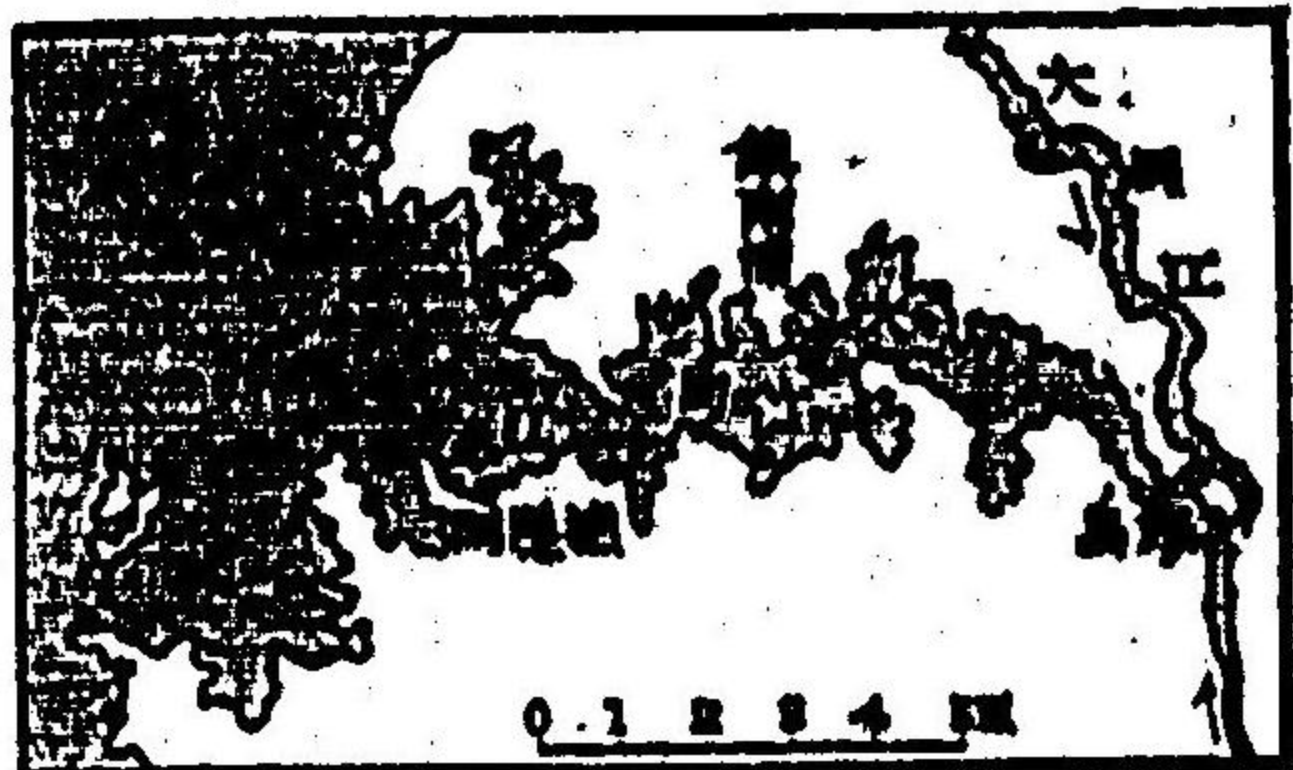
山元及び附近



釜 山 浦

山浦は韓國の南東岸に位し、絶影島其
 の前に横はる。其の位置我が國に最
 も近く、居留本邦人甚だ多くして、純然
 たる本邦市街を成し、我が領事館の設
 けあり。蔚山は全名の灣頭に位し、豐
 公征韓の役に名高し。
 (=)北部(咸鏡平安)咸鏡道は韓國の
 北東部を占め、圖們江Yalu Riverによりてシベリ
 ア及び清國に接す。東側に永興灣あ
 りて、元山Yuan-shan津は其の中に位し、砂金の輸
 出盛んにして、我が領事館の設けあり。
 平安道は韓國の北西部を占め、鴨綠江

によりて清國と境す、其の南部は大同江の流域に屬し、平壤



大同江の河口

は其の沿岸にあり、豊公征韓の役及び日清戰役に其の名甚だ高し、此の地は開港場となり、我が領事分館の設けあり。鎮南浦は大同江の河口にある開港場にして、我が領事館の設けあり。義州は鴨綠江の東岸に位し、滿洲に入る要點を占む。

三、人文地理。

(イ) 住民。人口凡そ一千萬内外ありと云ふ、我が國よりも密度甚だ小にして、特に人口減少の傾向あり。人種は蒙古人種の一支部にして、我が大和種族に似たり、上流の人は漢文を用ひ、他は諺文を用ふ。門閥の別嚴にして、奴隸の制尙ほ

普通の人民は沐浴せず、一般に怠惰にして朝寝を食る。



韓人 (結婚の禮装)

存す。教育は舊時の状態に安んじ、更らに進歩せず、上流は孔孟の教を

口にすも、一般に妖教行はる。衣服は上衣と袴とより成り、通常藁履を穿ち、竹冠を戴く。又厚葬の弊習久しく、墓地の地積大なるを以て、鐵道の敷設、鑛山の採掘等、利源の開發に故障少からず。

(ロ) 政治。政體は君主專制なり、中央政府は内外度支軍法學農商工の七部衙門より成り、各衙門に大臣を置く。又各道には觀察使を置くも、中央政府の命令十分に行はれず。

貨幣には舊
銀貨及び新
銀貨白銅貨
あれども最
も流通する
は我が銀貨
及び紙幣な
り

政府は時々
防穀の令を
布き我が商
人に損害を
與ふ

地方官は賄賂を貪り、重税を課し、人民はこれが爲めに赤貧洗ふが如し。海軍と稱すべきものなく、陸軍も至て不完全なり、而して財政常に困難を極む。此の國は本邦條約國中古昔より最も密接なる關係を有し、現今我が國は公使館を京城に、領事館を各開港場に置く。

(ハ) 生業 北部を除く外全國到る所、禿山多くして、林産至て少く、又日本海沿岸の水産は豊か、なれども、其の漁利は我が國人悉くこれを收む。農産は甚だ豊かにして、米、大豆、人参を重もなるものとす。金礦に富み、各國争ひて其の採掘の權を得たり。

外國貿易は重もに我が國とこれを行ひ、重もなる輸出品は米、大豆、生牛皮にして、輸出入額未だ多からず。仁川、釜山、

元山は重もなる開港場にして、城津、浦馬山、浦木浦、神山、浦鏡、南浦、平壤、これに次ぐ。

(ニ) 交通 國內の道路は至て不完全なり、重もなる道路には常に一種の一里塚を見る。大河多けれども、未だ十分に利用せられず。近時に至り、交通少しく面目を改め、京仁鐵道は既に成り、京釜鐵道は着手中にして、何づれも我が國人の經營に係る。重もなる開港場と我が國、北濟及びウラジオストックとの航路は、日本郵船、大阪商船兩株式會社これを營む。又陸上及び海底電線によりて、我が國、清國、其他諸外國に通信し得べく、國內通信の手段として、舊時より烽燧の設けあり。近時國內に郵便の事業を開きしも、未だ盛んならず。

電線は外國
の管理に係
る

近時我が國
の技師を聘
し、燈臺の建
設に着手せ
り

第三章 清

China

第一節 地文地理

一、境域。

清國は又これを支那と通稱す。北及び西はアジアロシア、南はトンキン及びイギリス領印度、東はシベリア及び韓國に境し、又黄海及び東海に臨む。南北凡そ九百里、東西凡そ一千三百里、面積凡そ七十一萬方里あり。

二、沿岸。

海岸線は凡そ千里を超えず、これを國土の廣大なるに比すれば割合に短しとす。

(イ) 渤海の沿岸。渤海は遼東山東の二半島これを擁して直隸海峡これが

凡そ我が國の二十六倍

門戸をなす。内部は二大海を成し、北東にあるを遼東灣、南西にあるを直隸灣と云ふ。

(ロ) 黄海の沿岸。揚子江口以北直隸海峡以東一帯の海岸を云ふ。遼東半島の南岸には旅順口及び大連灣あり、海洋島は遙に東方に横はる。山東半島の北岸には芝罘、其の東に威海衛あり。同半島の東岸なる萊城灣は、日清の役、我が軍上陸して威海衛の背後を襲ひし所なり。尙ほ南西に進めば膠州灣あり、これより以南は概ね一帯の砂漠なり。

(ハ) 東海の沿岸。揚子江口より臺灣海峡に至るまでを含み、出入多く、良港に富み、島嶼少からず。瓊波、温州、福州、廈門等の開港場、揚子江口の崇明島、杭州灣の東方なる舟山列島、廈門灣の廈門島皆名あり。

(ニ) 支那海の沿岸。臺灣海峡以南の區域を占め、出入に富み、島嶼多し。雷州半島南に突出し、瓊州海峡を隔て、瓊州島、海南島に對し、トンキン灣の北東を限ざる。これより北東に廣東灣あり、灣の東方に香港島、西方に澳門島あり。

三、地勢。

清國の地勢はこれを二つに分ちて説くを便とす。

(イ)中央アジアの地勢。廣大なる高原の性を具へ、唯二つの低地を有するのみ。數多の山系は此の區域の境上及び内部に横はり、皆パミル高原より起り、多くは東西に連亘す。其の最も南にヒマラヤ山系、其の北に西藏高原、又其の北に崑崙山系あり。これより北すれば、階段状を成して、塔里木河の平原に降る。これ天山南路の地方なり。此の北に天山山系あり、これより再び降りて天山北路の低地となる。

崑崙山系は東に延び、北するものは祁連山、賀蘭山、陰山等の諸山脈となり、與安徽に連り、南北に走り、以て滿洲及び蒙古の境界を成す。

(ロ)東部アジアの地勢。崑崙山系延びて黃河、揚子江の間

に綿亘す、所謂北嶺これなり。又南嶺は西藏の東邊に起り、揚子江の南側に綿亘し、其の西部の横斷山脈は南北に走り、數多の縱谷を成し、階大河の上流これを流下す。又黃河の下流揚子江沿岸及び滿洲の一部には平地少からず。

四、水系。

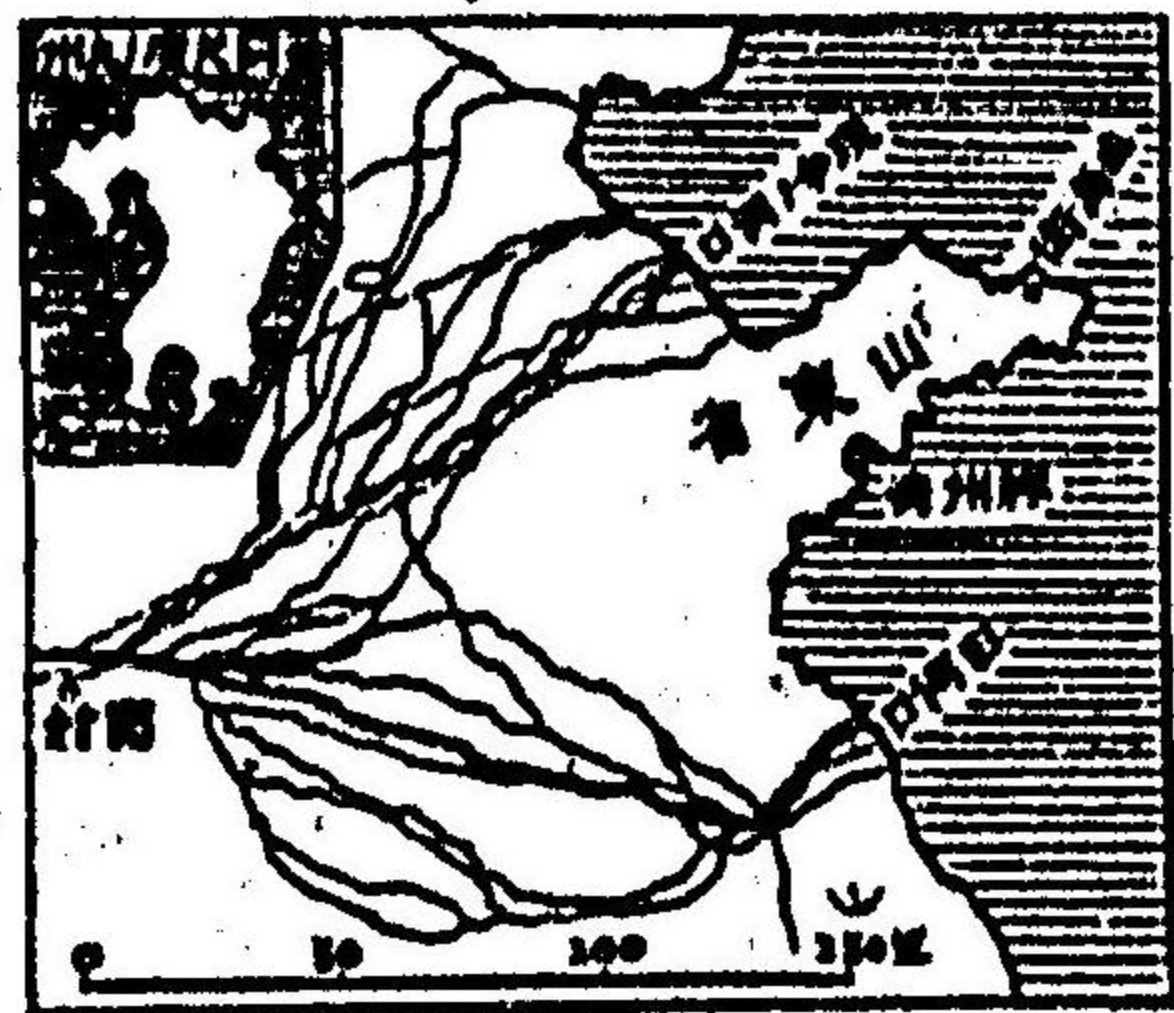
清國の水系はこれを分て二つとなし得べし。

甲、内地流域を有するものには塔里木、伊犁の二河、羅布泊、青海及び西藏の諸湖、其の著名なるものにして、中央アジアの區域に屬するものは概ね此の類の内陸河と口なき鹹湖なり。

乙、沿海流域を有するものは其の斜面により、更らにこれを三つに細別し得べし。其の一、北極洋斜面、其の二、印度洋

斜面に屬するものには、大河の上流のみ清國の區域中にあ
るに過ぎず。其の三、大平洋斜面には大河頗ぶる多く、黒龍
江、黄河、揚子江、珠江は其の重なるものなり。

(イ)黄河は單に河と稱せらる。其の水黄土を含みて常に黃濁なり、流れ急
にして、河道の變遷甚しく、水害古より絶ゆることなし。(ロ)揚子江は單に江
又長江或は大江と稱せらる。長さ凡そ一千三百里、世界第三、東大陸第一の



黄河河道の變遷

大河にして、大汽船を通じ、沿岸開港場甚だ多く、
下流は運河縱横に通じ、河口には崇明島横はる。
重なる支流には、鴨綠江、海江、新設江、烏江、漢江
等ありて、漢江最も大なり。又洞庭及び鄱陽の
二湖は江に通じ、其の水量を調整す。(ハ)珠江は
南清の大河なり、一にこれを廣東河と稱す、東江
北江、西江より成り、西江最も大なり。其の三角

江と三角洲とは甚だ大にして、沿岸に開港場多し。

其の他南清に閩江、北清に白河、滿洲の北境に黒龍江、其の支流に松花江及
び烏蘇里江あり。

五、氣候

南部の沿岸は溫和にして、季節風の爲めに雨量多きも、屢
大風の害を被る。北部の氣候は大陸性にして、沿岸多くは
氷結し、西藏及び蒙古は、雨量極めて少く、沙漠には旋風屢起
る。極南部の氣候は熱帶性を帯び、雨量は初夏に多し。

第二節 地方誌

一、區劃

行政上全土を分て直省及び藩部とし、更らにこれを左の
如く細別す。

支那本部(十八省)

直省滿洲(東三省)

新疆省(伊犁)

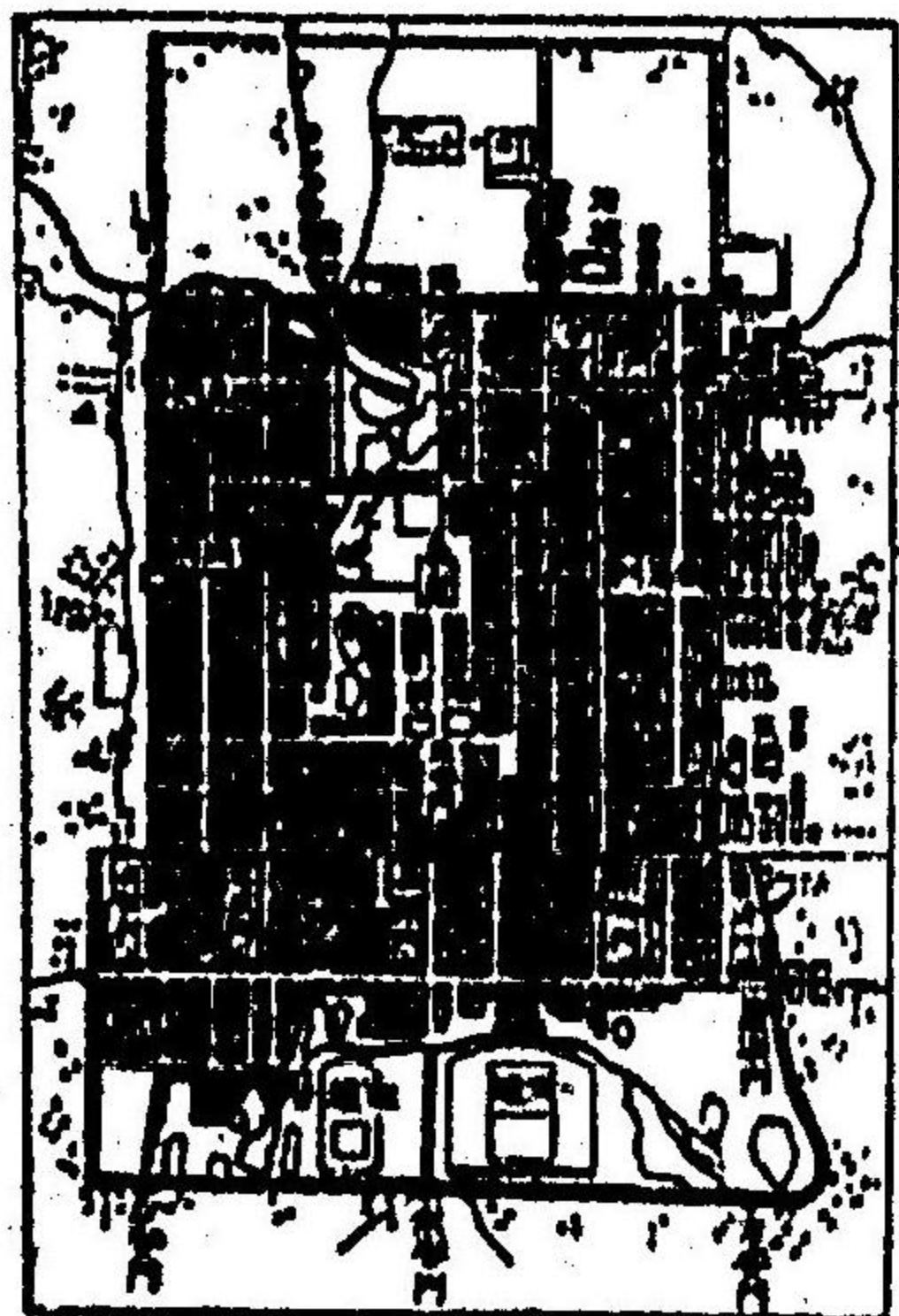
蒙古

藩部 青海

西藏

二、支那本部。

支那本部は即ち十八省の總稱にして、南嶺北嶺によりて自ら三部に分れ、黄河揚子江珠江の三大河其の間を流る。



内外二城に分つ。内城には皇城、諸官衙、各國公使館等あり、

北 現今清朝の國都にして、
直隸省の北京(順天府)は
にこれを燕京と稱す。市
街を圍らすに廓壁を以て

京 周圍凡そ十里、廓内を又

河道填塞し
大船を通ぜし
ず且つ冬季
は河水が結
氷し水路全
く絶たす

外城は商業の繁盛内城を凌ぐ。入口凡そ一百六十萬、街路
廣濶なれども、極めて不潔なり。天津は北京の咽喉、北清貿
易の中心、直隸總督の駐在地にして、白河の岸に位し、在留本
邦人多く、我が總領事館あり。白河の河口に近き大沽の砲
臺は近時、北清事變の際に破壊せられたりき。

山東省の濟南府は同省の首府なり、芝罘、煙臺は開港場にして、氣候の溫和なること北清第一なり。

山西省は直隸省の西にあり、首府を太原府と云ふ。

河南省の首府開封府は黄河の南岸に位し、古來屢水害を被れり。

陝西省の首府西安府は渭水の南にあり、古の長安にして、名所舊跡甚だ多し。

漢中府は棧道により四川省に通ずる要點に當る。

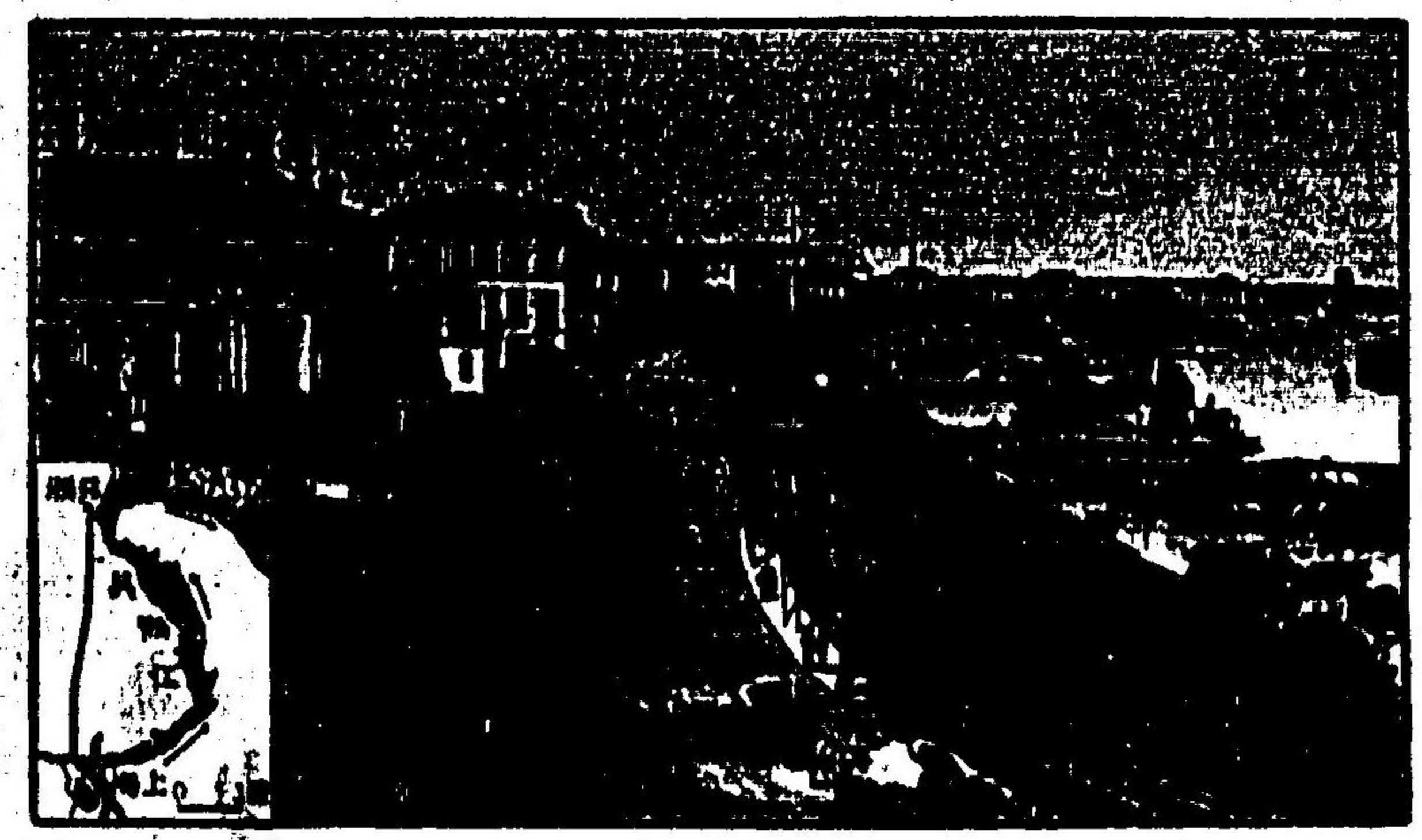
甘肅省の蘭州府は同省の首府にして、陝甘總督の駐在地なり。

江蘇省の蘇州府は本省の首府にして、大運河に沿ひ、上海

阿房宮跡

春秋時代吳の故都

大報恩寺の
塔は長髪
賊の爲めに
破壊せられ
たりき



上海港

との間日々汽船を通じ絹布の産に富む。江寧府は兩江總督の駐在地に於て揚子江の南岸にあり市街の規模宏大にして世にこれを南京と通稱す。上海は吳淞江(黃浦江)の岸にあり其の水揚子江に通じ大船これに入り得べし。人口凡そ四十萬清國第一の開港場なり。外國人の居留地(租界)は清潔にして在留本邦人甚だ多く日本郵船

株式會社の航路に當り本邦總領事館あり。

鎮江府は江寧府の東方長江の南岸にある開港場にして大運河との會合點に位す。

安徽省の首府安慶府は揚子江の左岸に巢湖の開港場は其の右岸にあり。

江西省の南昌府は本省の首府にして鄱陽湖に入る贛江の下流にあり。

九江は鄱陽湖の湖脚にある開港場にして附近の景德鎮は陶器の産全國に冠たり。

浙江省の杭州府は本省の首府にして同名の灣頭浙江の河口にあり。市街の麗風景の美を以て其の名世に高く絹

布の産に富む。寧波は昔時我が遣唐使の至りし所温州は蜜柑の産地なり。

福建省の福州府は本省の首府にして閩江の下流にあり。人口凡そ百萬貿易隆盛福建水師の根據地閩浙總督の駐在

海嘯(津浪)に非ずの奇觀あり

臺灣福建の海底電線の有なり

人民河上に
舟居するも
の甚だ多し

廣西省の山
間に苗瑶等
の蕃人多し



廣 西 門

地にして、近傍に馬尾船政局あり。厦門は厦門島鼓浪嶼等の諸島によりて良港を成し、臺灣に對して大切なる位置を占め、淡水との間汽船の往來盛んにして、在留本邦人甚だ多し。三都澳は近時の開港場なり。

廣東省の廣州府は珠江の河口に位し、世にこれを廣東と通稱す。廣東省の首府、兩廣總督の駐在地、廣東水師の根據地にして、人口凡そ二百萬、世界第四の都會なり。

廣西省の桂林府は本省の首府にして、梧州は西江の岸にある開港場なり。

湖北省の武昌府は本省の首府、湖廣總督の駐在地にして、揚子江を隔

附近に赤壁の故戰場あり、鐵道は漢口より北進し、より大北京と漸次北進し、速せんとす

古の蜀の地



廣 東 及 び 附 近

て、漢陽及び漢口と相對し、共に鼎足の勢を成す。漢口は漢江の口に位し、清國內地商業の中心にして、人口凡そ八十萬、茶を重要なる輸出品とす。沙市は長江の航路に當り、宜昌は長江汽船航路の終點に位し、上海を距ること殆んど一千哩、四川省に入る門口に當り、頗ぶる重要な位

置を占む。

湖南省の長沙府は本省の首府、洞庭湖脚の岳州府は近時の開港場なり。

四川省は巫山の峽棧道の險により、自から別天地を成す。

成都府は本省の首府、四川總督の駐在地にして、市街の壯麗

清國第一と稱せらる。重慶府は揚子江の支流嘉陵江の口に位し、商業盛大なり。

貴州省は苗蛮等の蕃人多く、氣候不良なり、首府を貴陽府と云ふ。

雲南省はイギリス及びフランスの領地に接し、鑛産甚だ豊かなり。雲南府は本省の首府、雲貴總督の駐在地なり。

三、滿洲(東三省)

長白山脈は東部に連り、遼河、松花江は内部、鴨綠江、烏蘇里江、黒龍江は境上を流れ、シベリア鐵道の一部は内地を横斷す。氣候は大陸性にして、物産には金、獸皮、大豆、高粱等あり。

奉天省(盛京省)の首府奉天府(盛京)は府尹、將軍、五部の衙門ありて、東三省政治上の中心なり。吉林省の吉林府は松花江の岸に

清朝開港の故地、日清戰役の遺跡

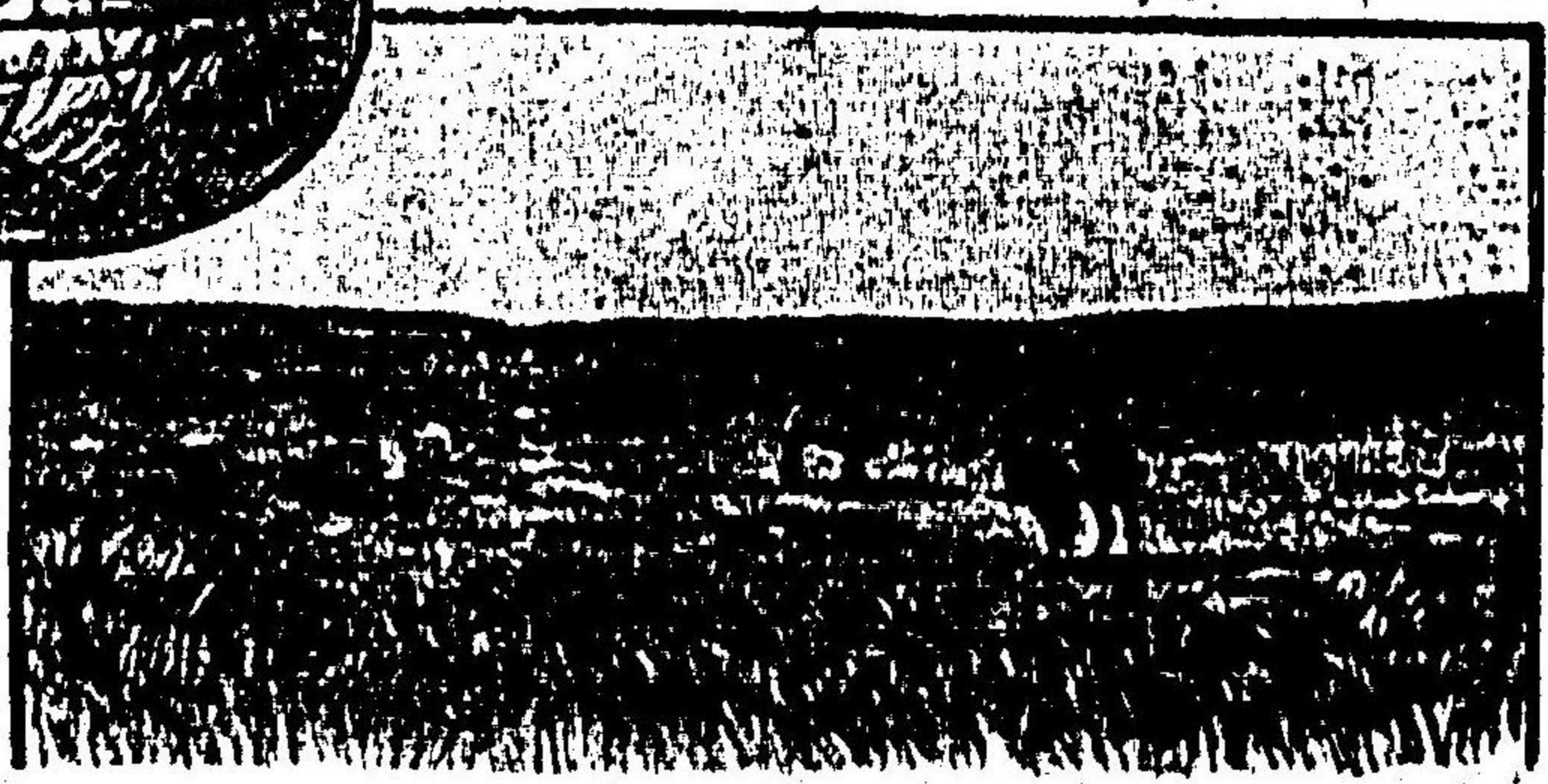
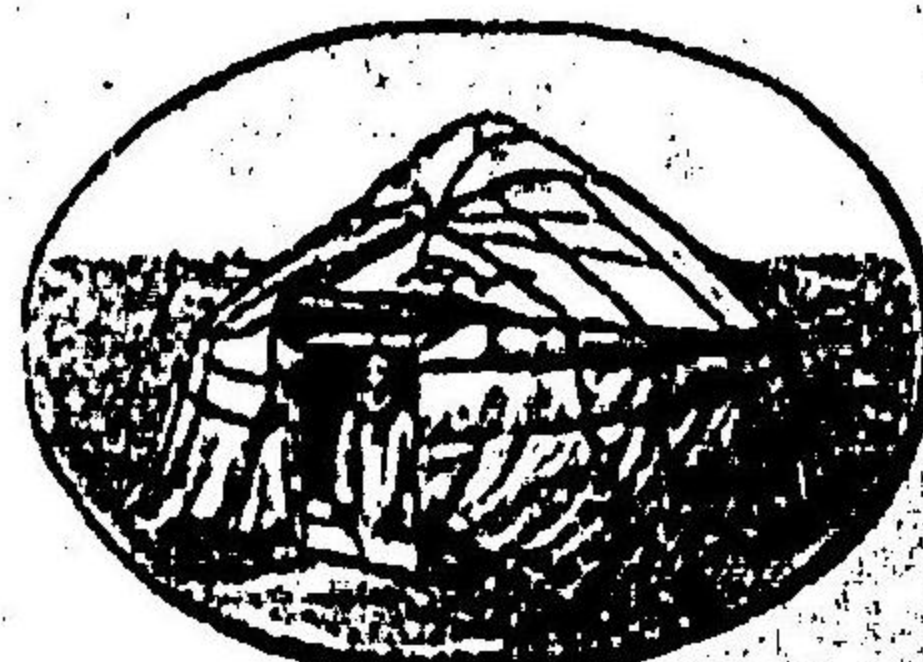


滿洲の兵卒

位し、本省の首府、吉林將軍の駐在地なり。塔はシベリア及び韓國に入る要路に當り、珲春城は二國の境

上に密接す。黒龍江省の齊齊哈爾城は本省の首府、黒龍江將軍の駐在地なり。愛渾(黒龍江城)は黒龍江の岸に位し、ロシア領に對す。哈爾濱はシベリア鐵道東清線の要點なり。

清國政府は
要地に都統
將軍・大臣
を置きこれ
を統御す



蒙古の沙漠

四、蒙古

Mongolia

清國の北部を占め、北はシベ
リアに境し、南は略々萬里の長
城によりて支那本部に接す。
ゴビの沙漠中部を縦貫し、全土
を内外の二部に分つ。住民は
遊牧を業とし、騎馬に長じ、喇嘛
教を信ず。
庫倫ChulunウUルUガGaは外蒙
古北部の中心にして、壯嚴なる
喇嘛教の殿堂あり。
賣買城は
シベリアのキキククタタに連れる陸
路貿易場にして、茶の取引頗ぶ

古の西域

る盛んなり。

五、新疆省

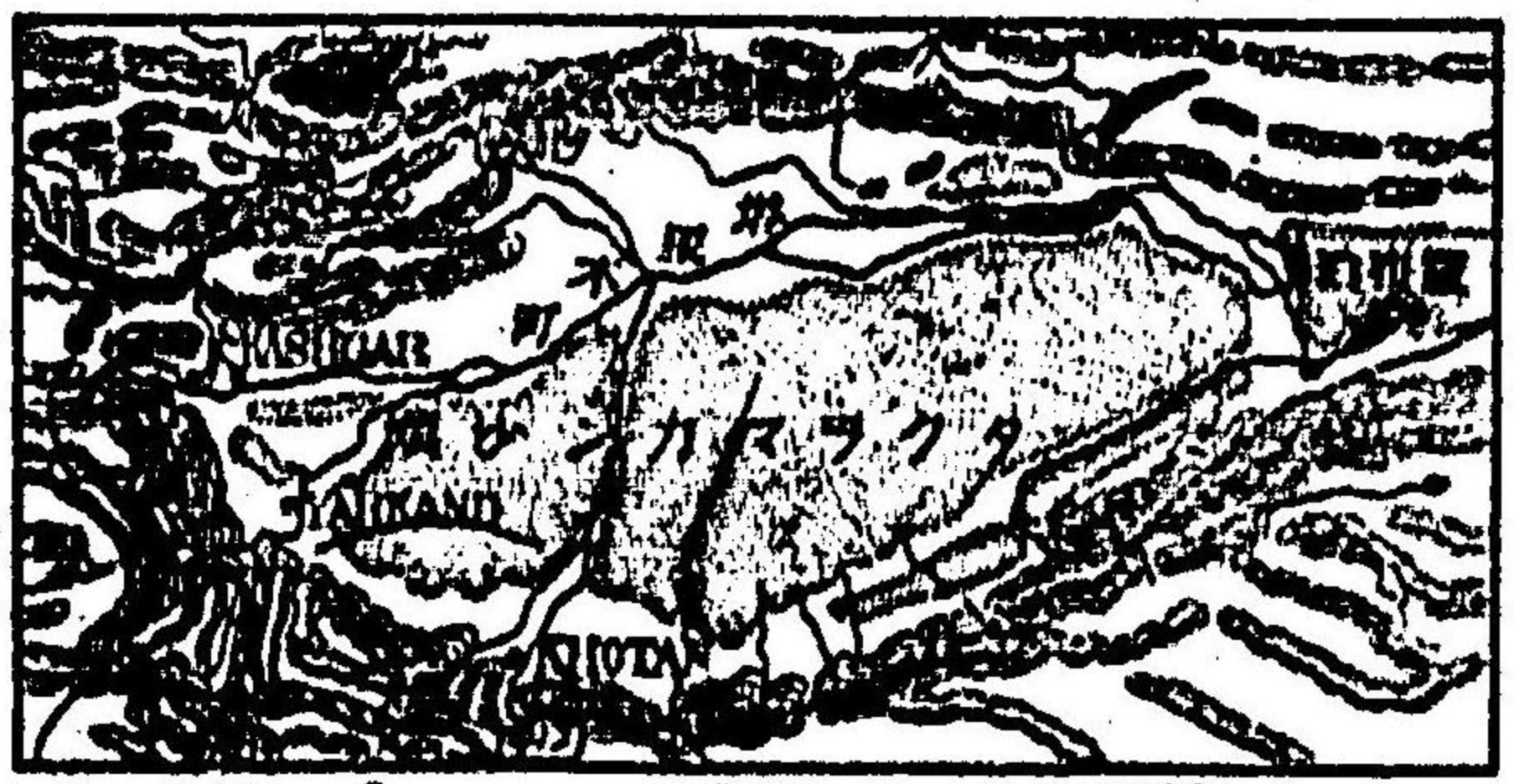
Xinjiang

新疆省は支那全國の西部を占め、一にこれを伊犁と稱す。



スメンヘガン

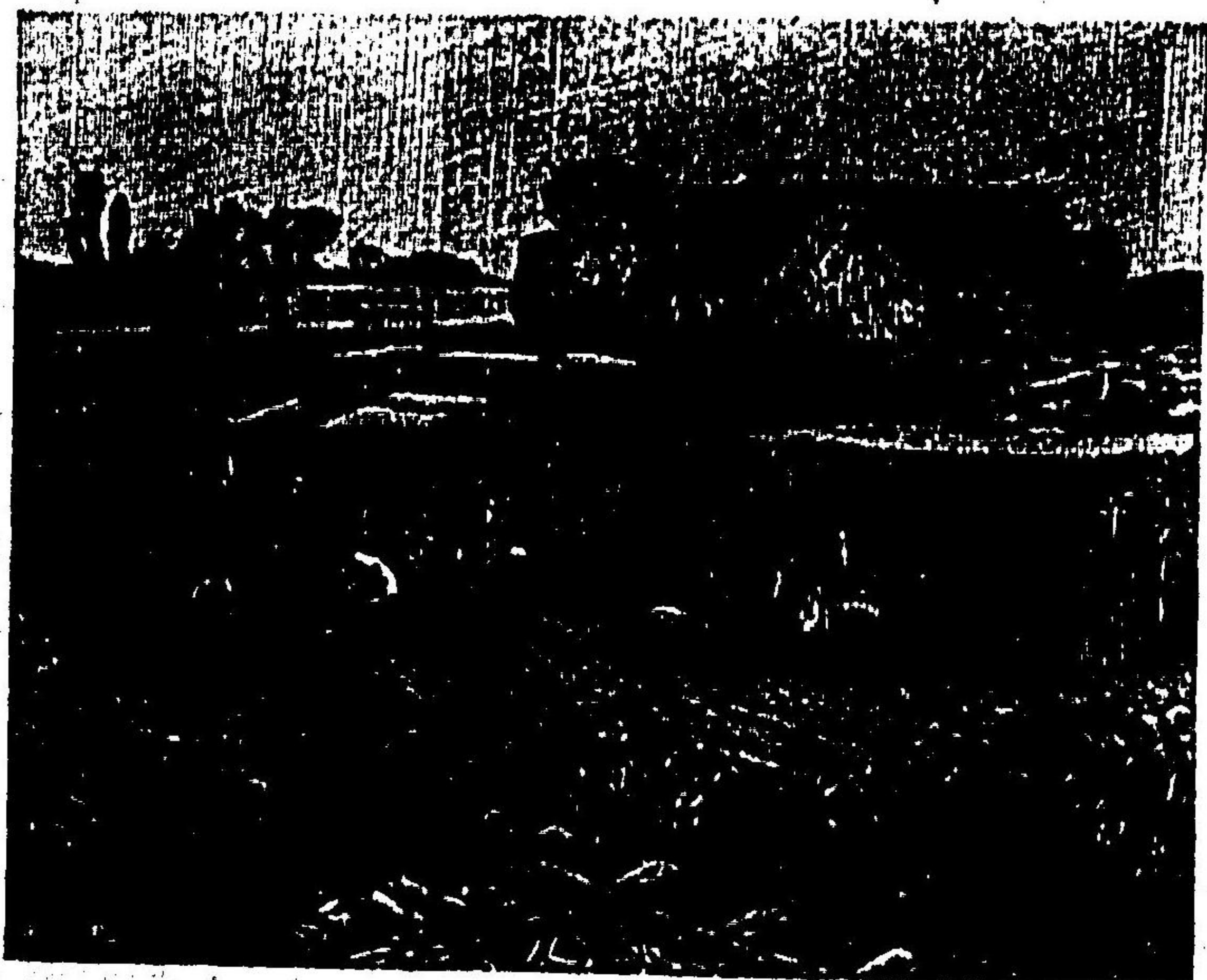
天山南路



天山北路は伊犁・塔里木の流域に屬す

天山山系は城内を天山北路(ジュンガリア)天山南路(東或は支

Jungaria



ル・市の街

那トルキスタン)の二部に分つ。天山南路の地理は近時スウェーデン人スベン・ヘデンの探險により大に明瞭となれり。人民多くは土耳其種に屬し、回教を信ず。
迪化府(烏魯木齊)は交通の要路に當り、新疆巡撫の駐在地なり。

青海と稱する大湖あり

六 青海

Kokonor

伊犁府は一にクルジャと稱す、北京を距ること一千四百里。
青海地方は清國全土の中央を占め、地勢極めて峻峻、人口極めて稀少、物産には酪牛あり。

七 西藏

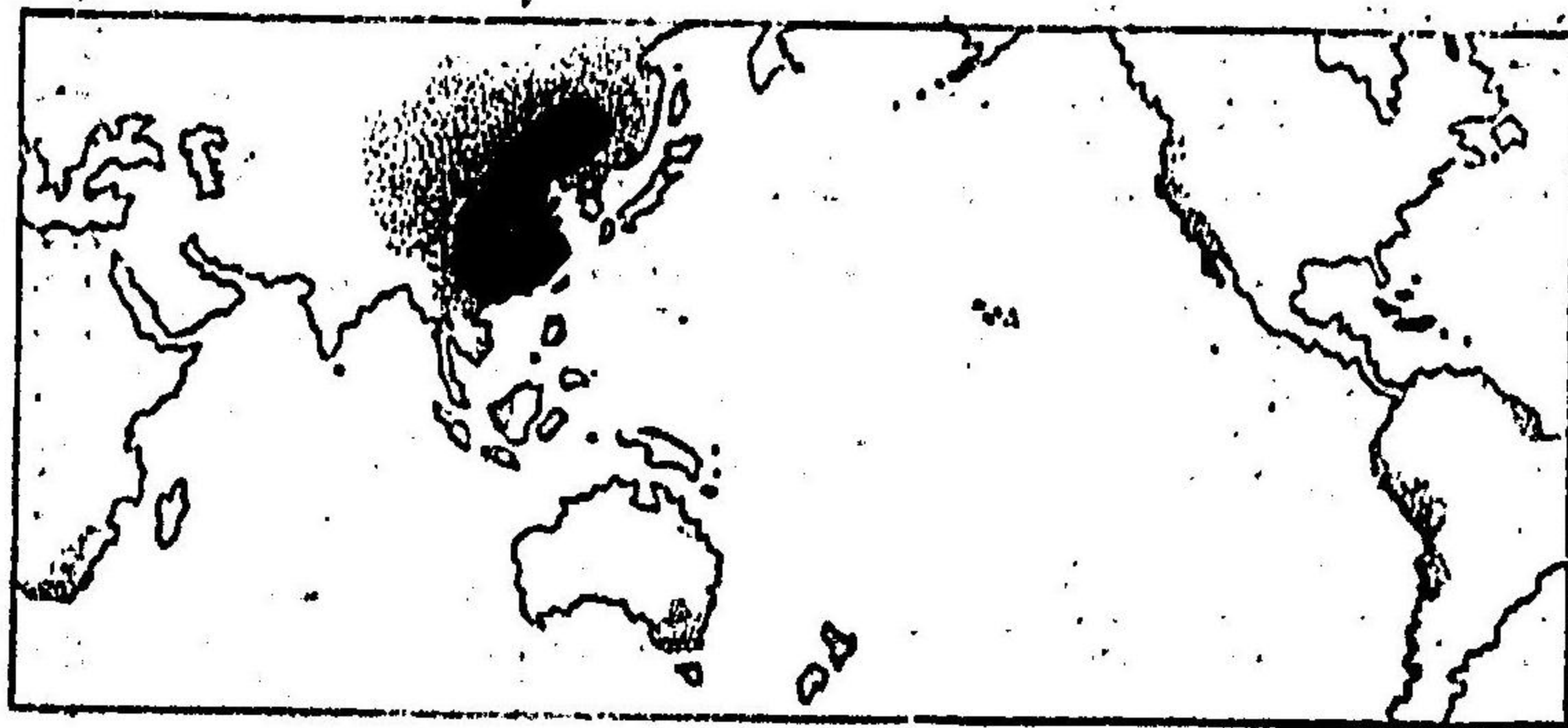
Tibet

支那全土の南西部を占め、其の地勢世界第一の高原にして、南部アジア諸大河の水源地を成し、氣候は寒暑共に甚し。北京政府の監督を受くれども、内政は全く喇嘛教王の自治に任じ、鎖國して外國人を入れず、地球上地理最も不明なる部分なり。全土は前藏後藏の二部に分れ、首府拉薩は前藏にあり、北京を距ること凡そ千八百里なり。

高度平均一萬二千尺、國中無口湖多し

第三節 人文地理

一、住民。

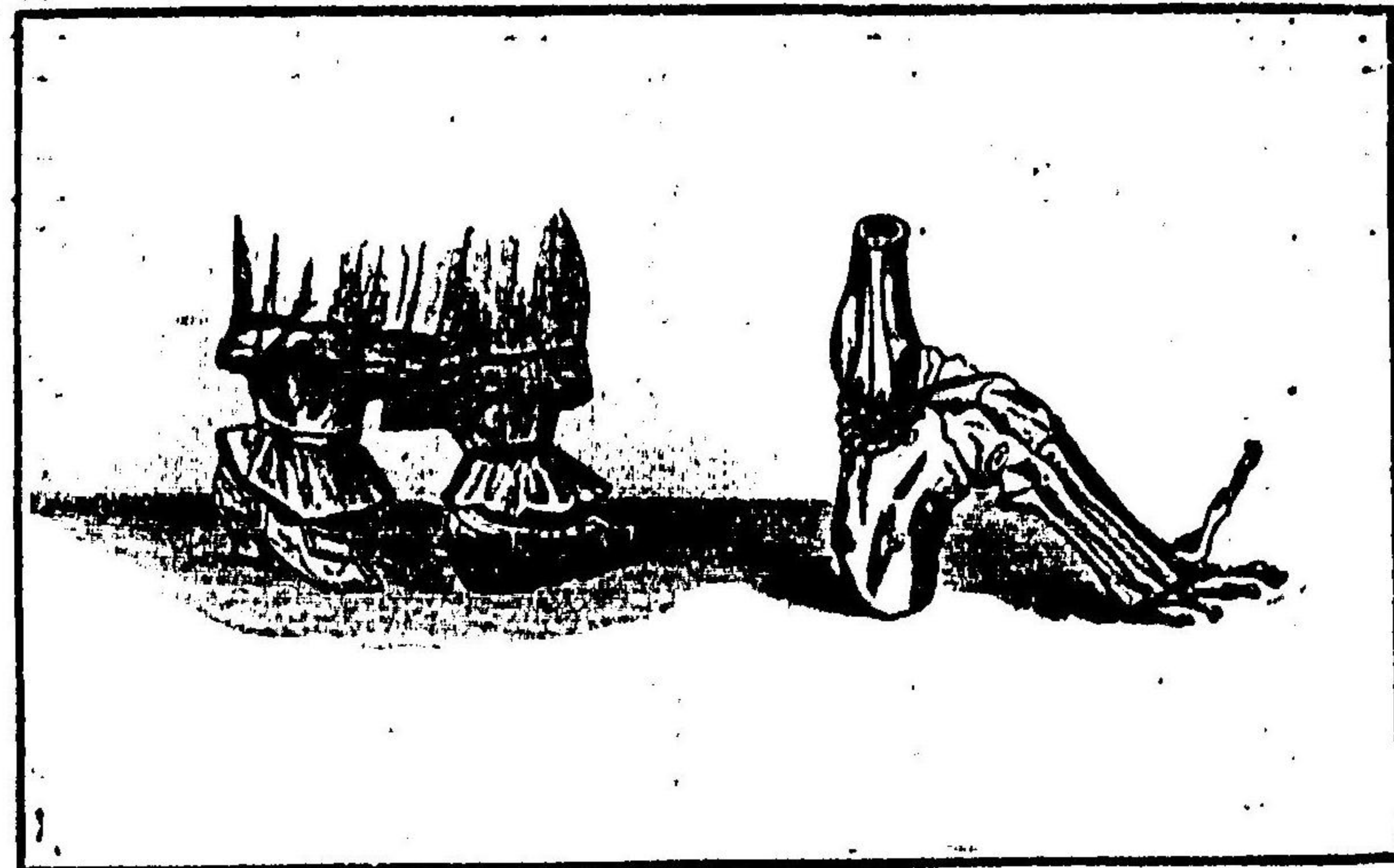


北アメリカ
合衆國にて
は清國人の
移住を禁じ
オーストラ
リアにては
非常なる人
頭税を課す

支那人の分布

人口凡そ四億、世界人口の殆んど四分の一を占む。支那本部の一部は人口の密度甚だ大なるが故に、海外に移住するもの殆んど全世界に亘る。

人種、言語、風習、所により大差あり。人種を大別して六種とす、漢種、ツングーズ種、滿洲に多し、トルコ種、新疆に多し、蒙古種、西藏種、苗種、南部に多し、これなり。言語の重なるものを漢語、滿洲語、蒙古語、トルコ語の四



種とす。漢語は方言甚だ多く、其の上流社會一般に通ずるものを官話といふ。

最も多數を占むる漢人及び滿洲人は、儉に非ざれば奢にして、舊慣を脱せず、商機に敏にして、團結強きに係はらず、忠君愛國の志を缺く。脂肪多き食物を好み、常に豚を用ふ、生水を飲まず、煮ざるものを食せざるは、良習なれども、阿片喫烟と女子纏足とは

其の二大弊なり。辨髮の制清朝より始まり、厚葬の風古より存し、又字を書せる紙を大切に於て、苟くも遺棄することなし。

教育は近時大に改良進歩の計畫ありと雖も、其の功績未だ著しからざるが如し。唯多數の留學生を年々本邦に送るに至りしは、特に注意すべきことなりとす。

宗教は一ならざれども、儒道佛最も行はれ、蒙古及び西藏には喇嘛教専ら行はる。

二、政治。

政體は君主專制なれども、大濟會典に則りて政治を行ひ、要路の大官には必ず滿洲人、漢人を併せ用ふ、政治機關は帝室部、中央部及び地方部の三部より成る。中央部には内閣

あれども、實權は辨理軍機處にあり、内閣の次ぎに吏部、禮部、兵部、刑部の六部あり、今は又別に海軍部及び外部の二衙門を置く。地方部は二十二省の中、東三省を除き、多くは一省或は二三省に總督を置き、又多くは各省に巡撫を置くこと左の如し。

省 總督駐在地

巡撫駐在地

直隸 蘇直隸總督(天津)

山東

山東巡撫(濟南)

山西

山西巡撫(太原)

河南

河南巡撫(開封)

陝西

陝西巡撫(西安)

甘肅

甘肅巡撫(迪化)

新疆

新疆巡撫(迪化)

一部は新式兵器を有し、新式の訓練を經たるものなり

江蘇 (江南)	江蘇巡撫蘇州
安徽 (江南)	安徽巡撫安慶
江西	江西巡撫南昌
湖北	湖北巡撫武昌
湖南	湖南巡撫長沙
四川	四川總督成都
雲南	雲南巡撫雲南
貴州	貴州巡撫貴陽
浙江	浙江巡撫杭州
福建	福建巡撫福州
廣東	廣東巡撫廣州
廣西	廣西巡撫桂林

兵備は陸軍に八旗、綠旗、勇の三種、八旗及び綠旗より選拔せる練軍あり。海軍は日清戰役後未だ舊に復せず。

一時滿洲はロシアに占領せられたるが、今諸國は現多量の兵を駐屯せしむるに電

此の國は舊時より我が國と交通し、本邦條約國中最も密接なる關係を有す。屢外國と事を生じて常に失敗し、特に日清戰役と義和團の内亂とは、國運の進歩に大打撃を與へたり。

我が國は公使館を北京に、總領事館を上海、天津に、領事館を牛莊、芝罘、重慶、沙市、漢口、蘇州、杭州、廈門、福州に置き、上海總領事館の分館を南京に置く。

萬里の長城は大運河と共に支那の二大工事と稱せらる。西は甘肅省の嘉峪關に起り、東は直隸省の山海關に至り、全長凡そ八百里、もと匈奴の侵入に備へしものなり。

三、産業。

南部は米、北部は麥、大豆を産し、阿片、蠶絲、茶、綿の産も亦た多し。牧畜は盛んにして、馬及び驢は北部に、駱駝、綿羊、山羊は蒙古に、豚は到る所にこれを養ふ。礦物には鐵及び石炭

南京織子
支那織子
南京燒

生絲を賣り
て金巾を賣り
ひ茶を賣り
て阿片を賣り
ふと云ふも
可なり

の非常なる量あり、又東洋特有の玉は崑崙山系より出づ。組織物及び陶器の製造は南部に盛んなり、製鐵造船紡績の工業も次第に盛んにして、漢陽の製鐵所、馬尾の船政局、上海の織布局等最も名あり。食鹽は政府の專賣に係る。厘金税の制は商業發達の障害をなししが、近時各國と締結せる通商條約により、漸次廢止せらるべしと云ふ。

外國貿易上全國の中心は上海にして、内地にありては漢口、北清にては天津なり。最も重要な輸出品は生絲及び茶にして、最も重要な輸入品は金巾及び阿片なり。我が國との貿易も近來盛大となり、我が國は米、大豆、綿、肥料等を輸入し、絹織絲、水産物、銅、鐵等々を輸出す。開港場は近時次第に其の數を増加せり、今これを列擧す

れば左の如し。

渤海の沿岸。牛莊營口 旅順 天津

黃海の沿岸。芝罘

東海の沿岸及び附近。上海 吳淞 蘇州 杭州 寧波 溫州 三都澳

福州 廈門

支那海の沿岸。汕頭 拱北 廣州(海口) 北海

揚子江の沿岸及び附近。鎮江 江寧 蕪湖 九江 漢口 岳州 沙市

宜昌 重慶

珠江の沿岸。廣州 三水 江門 梧州 梧州 南寧

其他雲南、廣西二省、蒙古、滿洲、西藏の邊境に於ては、陸路貿易盛んにして、廣西省の龍州、雲南省の思茅、蒙自、猛印、蒙古の賣買城、西藏の亞東は、重なる貿易場なり。

四、交通

南船北馬

巫山の峽を
通じ上流へ
汽船航通の
計畫あり

我が湖南汽
船株式會社
は洞庭湖沿
岸附近の航
路を計畫す

南部には揚子江、珠江及び運河の水利至大なり、唯有名な
る大運河は頗ぶる填塞して、糧米漕運上舊時の効力を有せ
ず。揚子江は漢口を経て宜昌に至るまで、大船を通じ、本邦
支那、イギリス、ドイツ諸國の汽船其の間を往來し、我が大阪商
船株式會社も亦た此の航路を營業す。

沿岸水路の航海も亦た盛んにして、多くは外國人の經營
に係り、支那人の營めるは招商局を以て重なるものとす。
我が日本郵船株式會社は舊時よりこれに従事し、近時大阪
商船株式會社も南清航路を開始す。

鐵道の發達は近時特に注意すべきことなり。北京より
天津を過ぎ、開平炭坑を経て山海關に達し、遂にシベリア鐵道
の南部滿洲支線に連絡す。南部滿洲支線はシベリア鐵道の

其の他計畫
中の線路甚
だ多し

東清線より分岐し、奉天府を経て、大連灣及び旅順口に達す。
北京より保定に達し、更らに南進するものは、漢口より起り
て北進する線路に合せんとす。其の他膠州灣附近、吳淞、上
海間に短距離の線路あり。皆殆んど外國人の經營に係る。
内地には手車ありて、運搬の用に供せられ、一輪にして往
々これに帆を附す。電信及び郵便は稍發達し、海陸共に内
外國へ通信を缺がず。

Moroka to the end is No. 5. M. I.

第四章 アジア洲中の獨立國

一 總説。

地勢上、ヨーロッパはアジア大陸の一半島たるに過ぎざれど、
も邦制上、アジアはヨーロッパの屬地となり、了らんとす。今各部

に就てこれを見れば左の如し。

東部アジア。日韓清の三獨立國より成る。但し清國の要地は他國の手中にあり。

北部アロア。すべてロシア領なり。

南部アジア。獨立國にはシヤム王國の外、ネパール及びブータンの二酋長國あるのみ、其の他は主としてイギリス領及びフランス領なり。

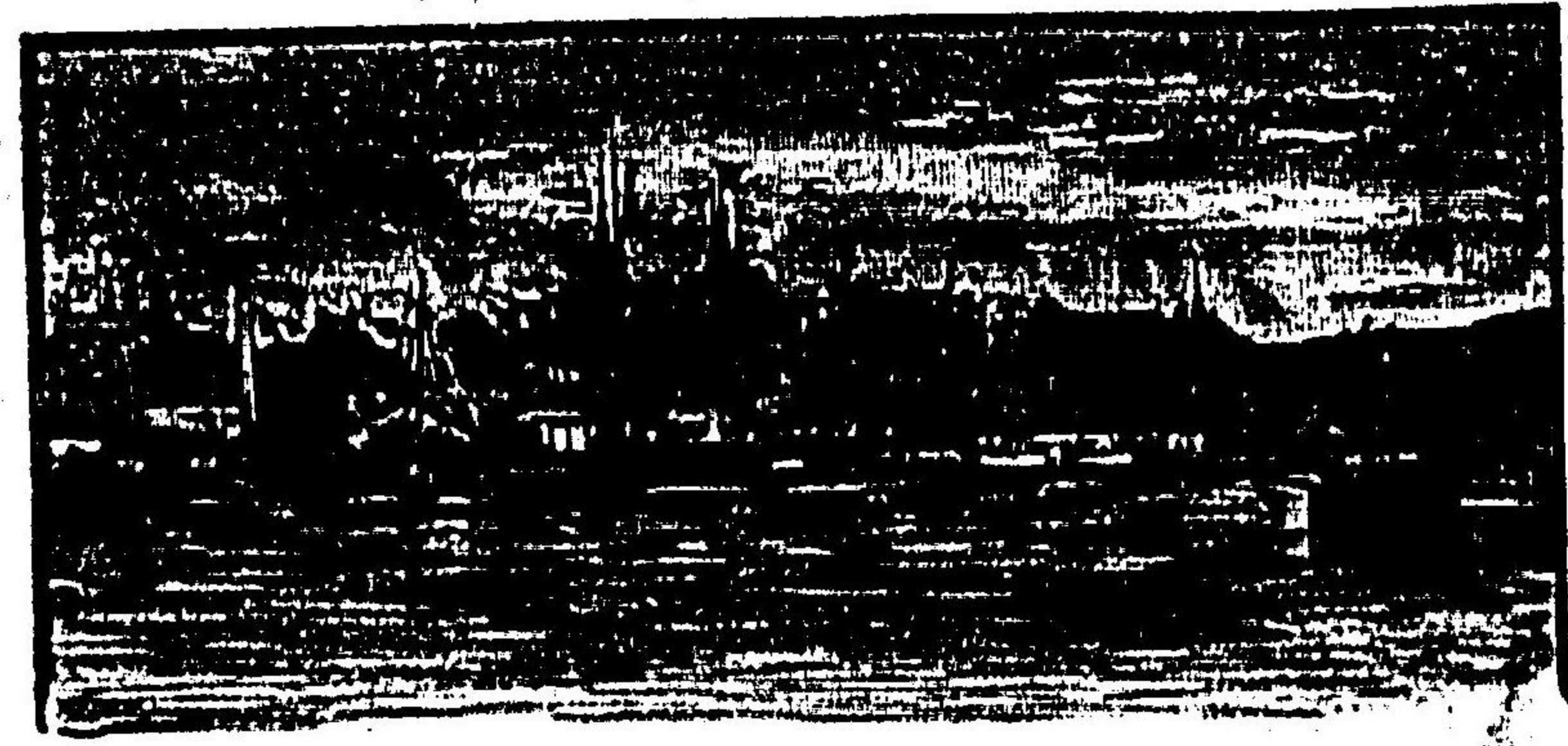
西部アジア。獨立國にはヘルシア王國の外、アフガニスタン及びオマーンの二酋長國あるのみ、其の他は主としてイギリス領及びトルコ領なり。

今アロアの獨立國中、日清韓三國を除き、左にこれを略説すべし。

ニ・シヤム。

Siam

印度支那の中部を占め、シヤム灣の北に位す。面積は我が國より少しく大にして、國の大部はメナム河の流域に屬し、米、紫檀、チーク材に富み、象は家畜として用ひらる。土人の



宮王クコンバ

外、支那人甚だ多く、國人横椰子を嗜み、齒黒く、口臭し。陸海軍共に微弱にして、輸出入額は未だ多からず。首府バンコクはメナム河に臨めども、河口淺くして、大船これに達すること能はず。チヤンタフChantaburiンは其の南東方に當り、フランス國これを借領す。此の國は本邦條約國にして、首府には我が公使館及び領事館の設けあり。近時外國人を聘して、諸般制度の改良に着手し、又鐵道も漸次延長せられ

んとす。

三、チバル、ブータン及びアフガニスタン。

チバル Khamp 及びブータン Bhutan の二國は共にヒマラヤ山系中に位し、

西藏と交通すれども、西洋諸國に對しては鎖國主義を取れ

り。アフガニスタンは印度の北西に位し、回教を信ずる遊牧

の民これに住し、カブールの酋長これを總轄す。

四、ベルシア及びオマーン。

ベルシアはアフガニスタンの西方に位し、イラン高原の大部を

成し、山脈は其の縁を圍む。氣候は大陸性にして、沙漠多く、

鹹湖に富む。住民は回教を信じ、其の四分の一は遊牧の民

なり、物産は穀物、絹、縞、膜、阿片を重なるものとす。政體は

君主專制にして、君主の稱號をシャーと云ふ。兵力、貿易共に

イギリスの間に在り、二國紛争の衝に當れり

北はカスピ海、南はペルシア湾に面し、イギリスの勢力範圍に在り

清國開港場の外人居住の地は清國の領外に立り、香港商業の權は清國人これを握る、都邑をビクトリアと云ふ

盛んならずして、海軍は小汽船二隻あるのみ、首府をアヘタン Tehran と云ふ。

オマーンはベルシア灣を隔て、ベルシアの南に當れる獨立の酋長國にして、首府をムスカットと云ふ。 Muskat

第五章 アジア洲中の附屬國

第一節 支那に於ける占領地

甲、支那の一部にして、名實共に他國の有なるは、香港及び澳門なり。

一、香港及び澳門。

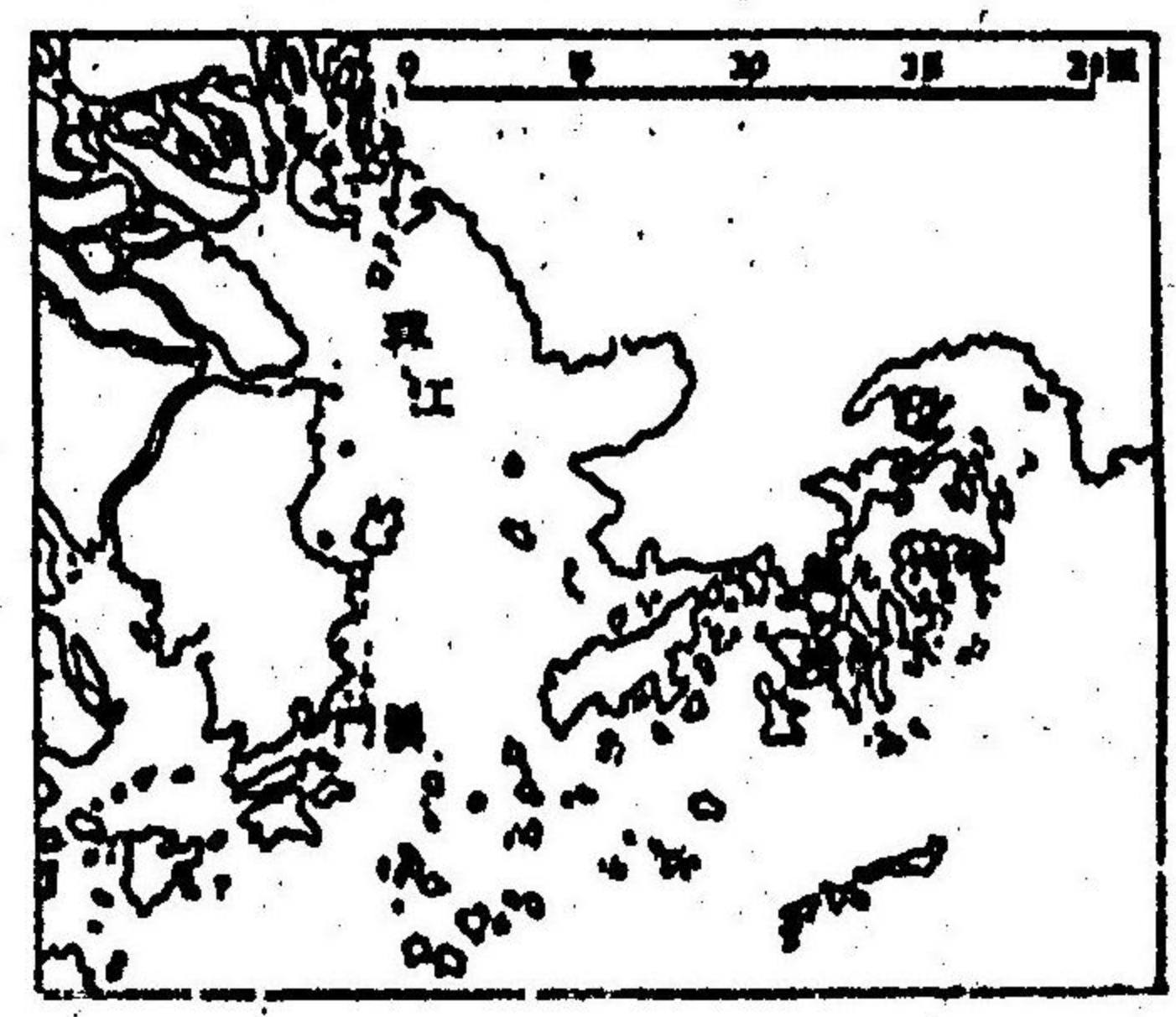
香港は珠江の河口に近き一小島にして、阿片戦争の結果 Hong-kong

清國よりイギリスに割讓せしものなり。今はイギリスの支那艦隊根據地、東洋貿易の中心となり、我が國との貿易も盛大

近時は香港防
禦の爲め九
龍の近郊に
大なる区域
を更らるに
せり。清領
地を借りし
り。



香港附近の讓與地方



香港及び澳門

香港はもと衛生上不良の地なりしが、イギリスの所轄に歸せしより、諸般の設備整ひて、大に面目を改むるに至れり。

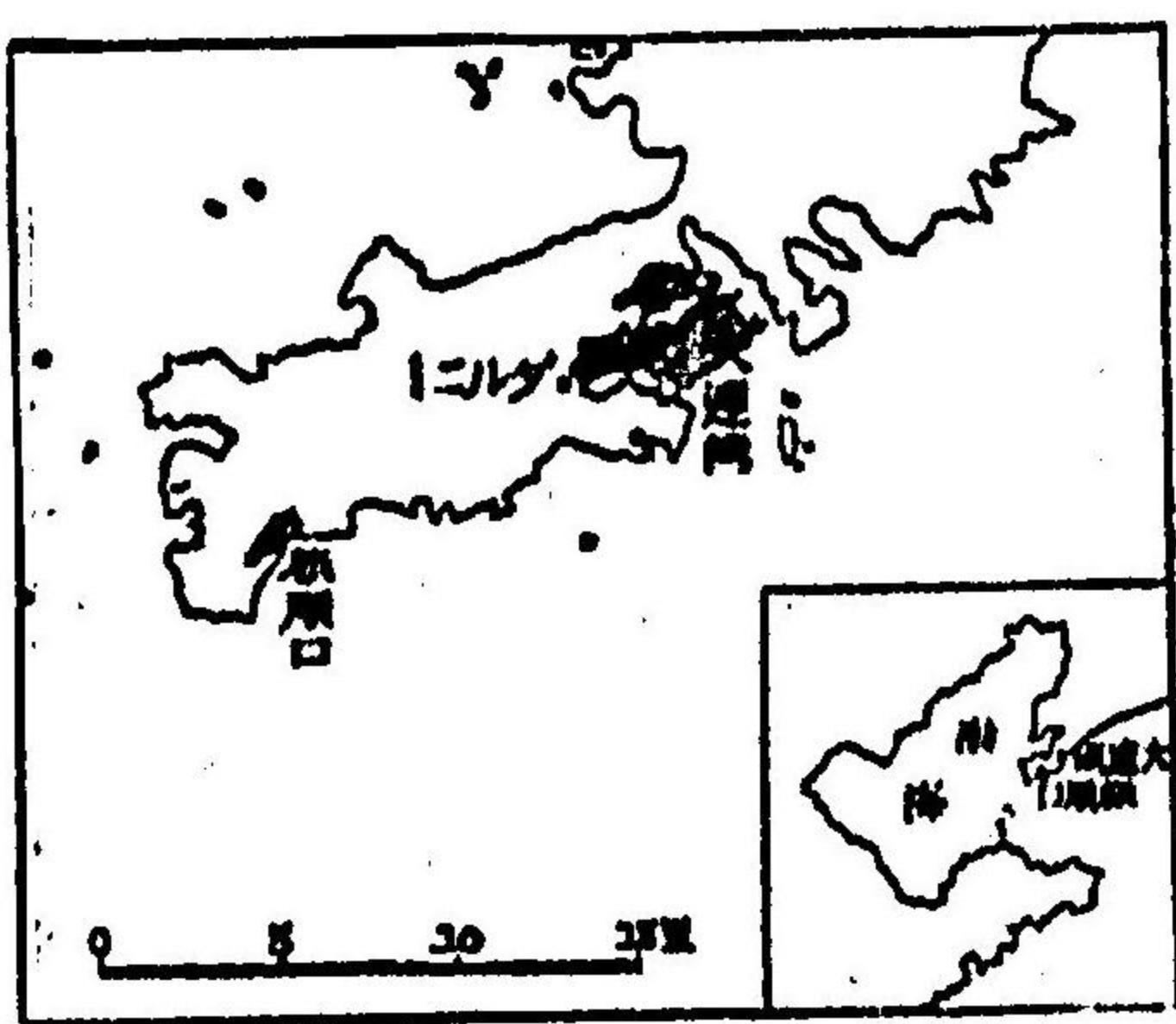
にして、在留本邦人少なくならず、我が領事館の設けあり、又日本郵船株式會社汽船の航路に當る。對岸の九龍は香港の讓與後更らにこれを清國より割讓せしものなり。

遼東半島は
日清戦役の
結果一旦我
が有となり
しも三國の
忠告により
て還附せし
ものなり

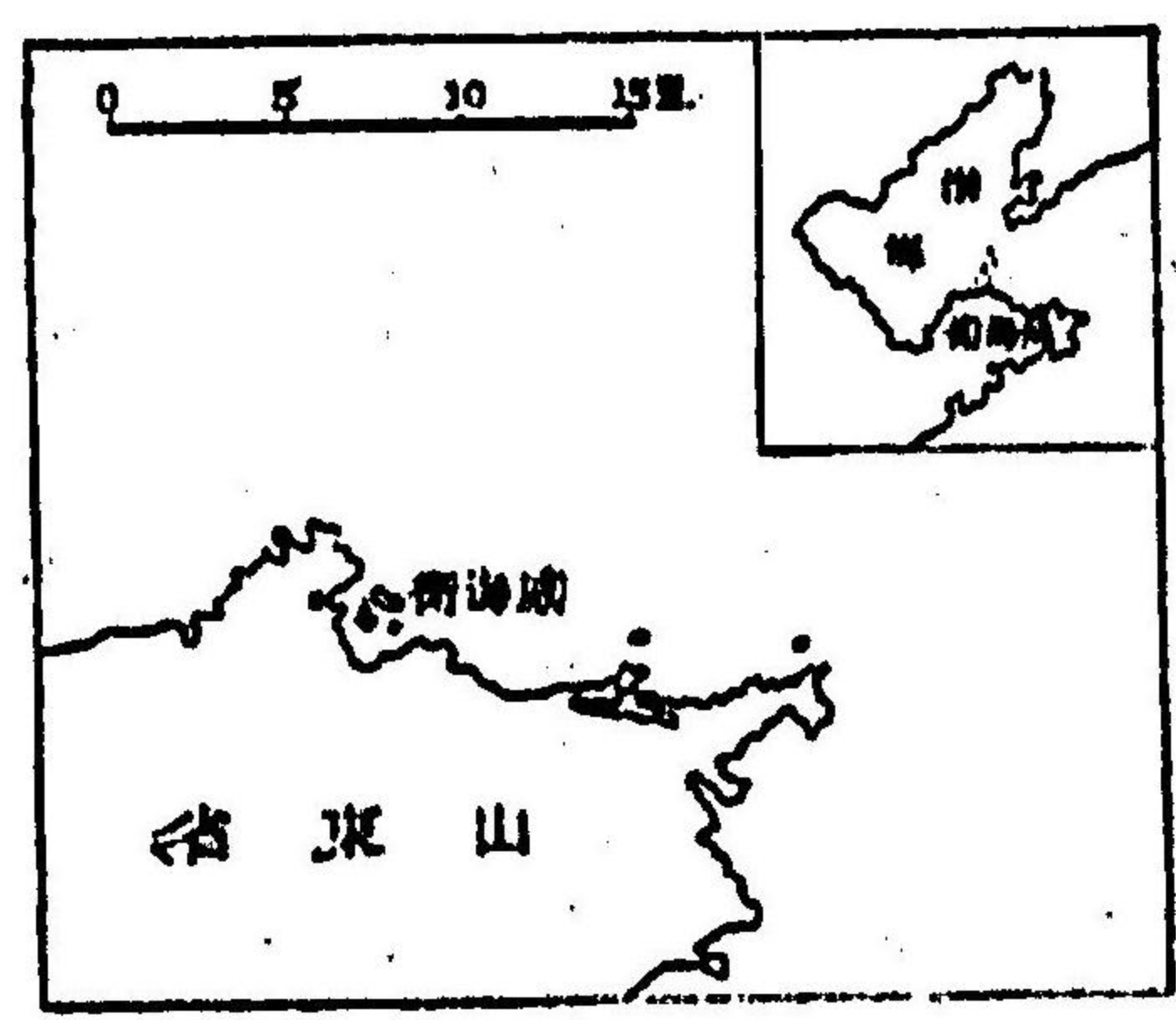
澳門は珠江三角洲の一部にして、ポルトガルに屬す。乙名義上の借地は旅順口大連灣威海衛膠州灣廣州灣なり。

二、旅順口及び大連灣

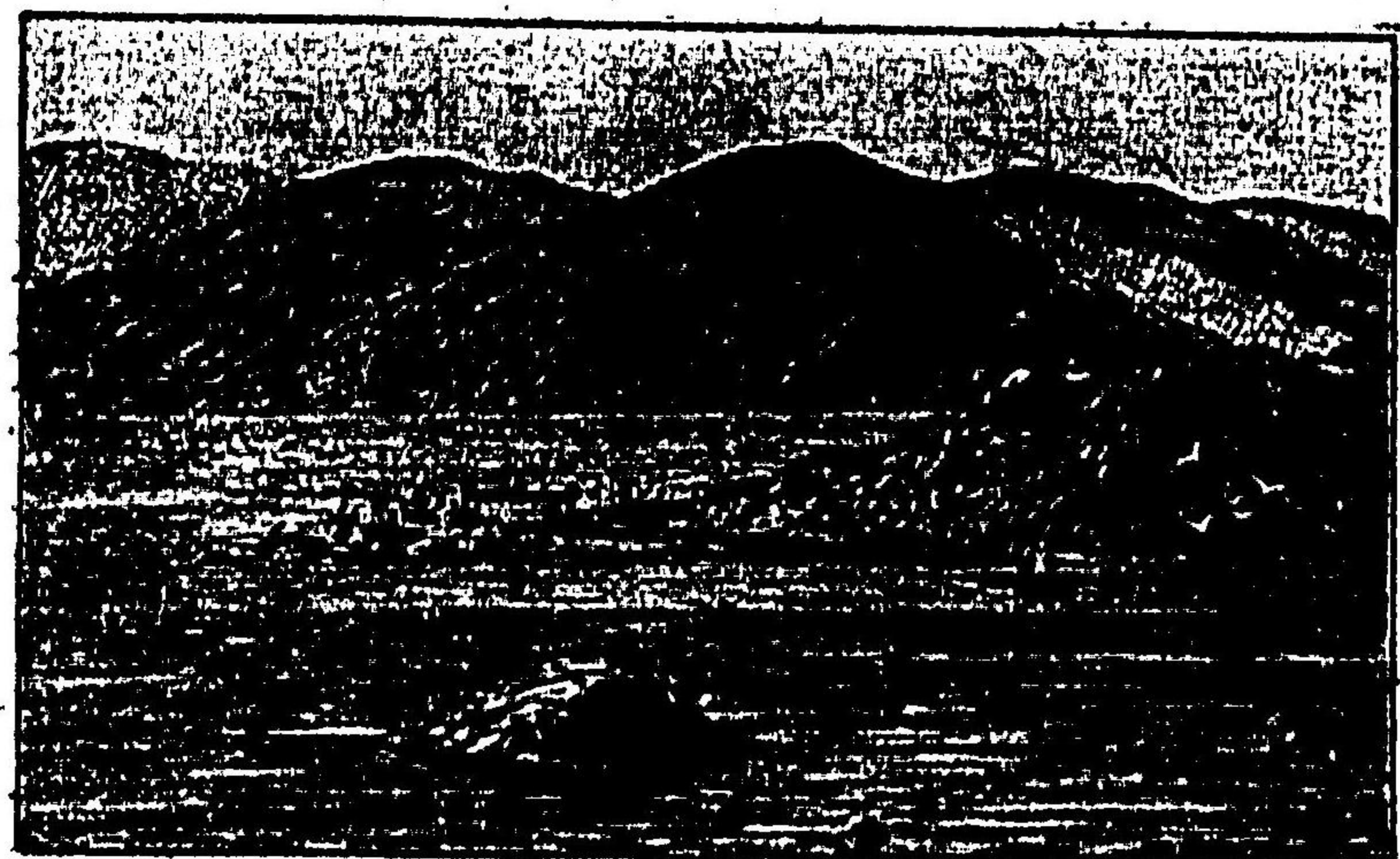
Port Arthur (旅順口) は經營を旅順口及び大連灣に施し、其の附近を以てロシア帝國の關東省とし、大連灣の市街にはダルニーの



旅順口及び大連灣



威海衛の北



威海衛 其の海

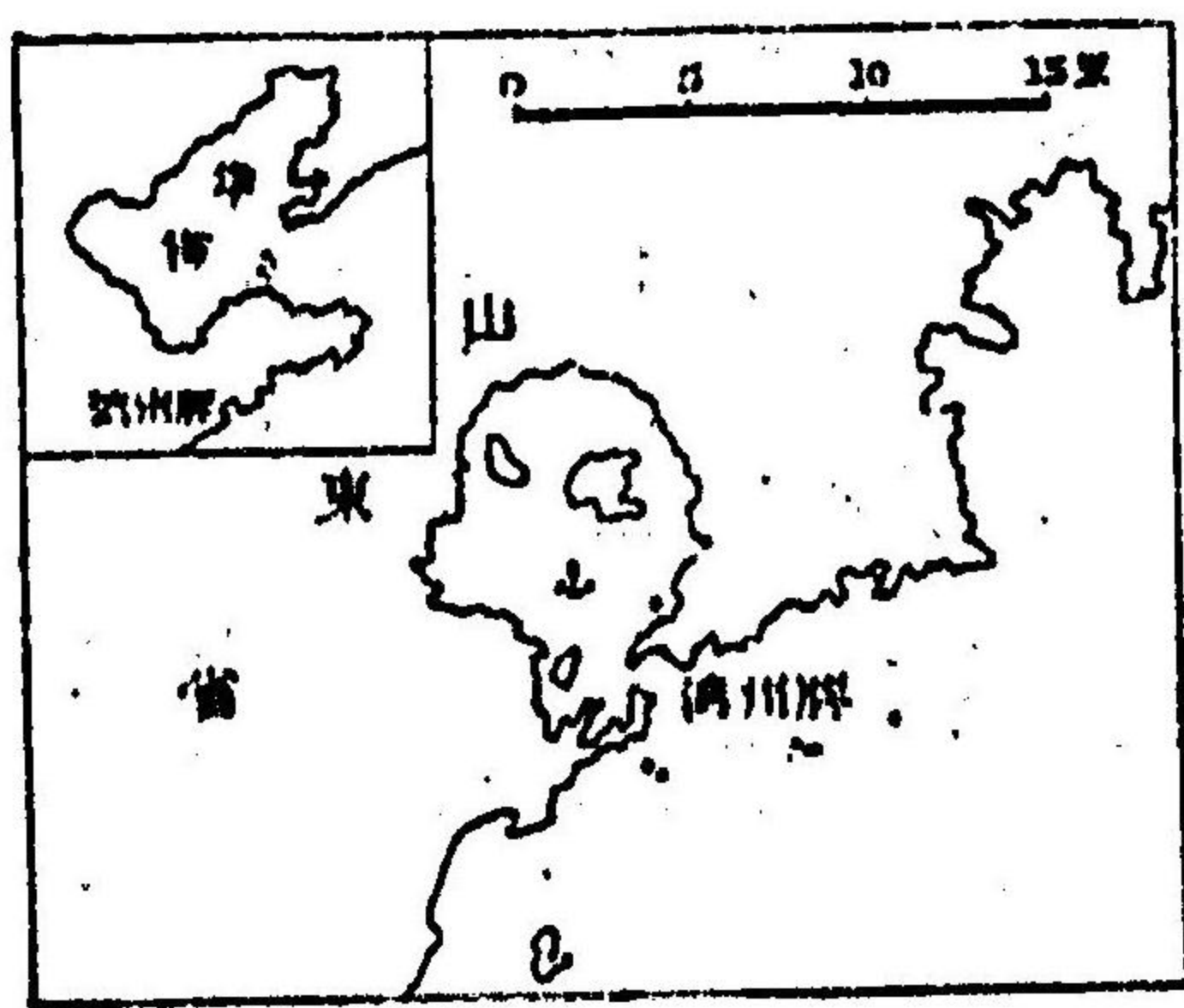
名を附せり。旅順口はシベリア艦隊の根據地とし、大連灣の大部はこれを開放す。義勇艦隊はオデッサより本港を経てウラジオスチックに至り、シベリア鐵道の支線は滿洲を通過して、旅順口及び大連灣に達せり。

三、威海衛。
威海衛は山東半島の北岸に位し、劉公島其の口を

扼し、もと清國北洋水師の根據地たりき。今はロシアの旅順口及び大連灣を占有すると、同期間、イギリスはこれを占有するの承認を清國より得、爰に軍隊を駐屯せしむ。

四、膠州灣。

膠州灣は山東半島の南岸にある良港にして、ドイツの宣教師殺害の結果、清國は遂に灣及び其の附近を占領せらるゝに至り、ドイツは本港を以て同國東洋艦隊の根據地とし、鐵道を敷設し、漸次本港と山東省の諸要地とを連絡す。



膠州灣

五、廣州灣。

Kwang-chau

概ね寒冷にして、特に往古巨象の遺骸に富めるレナ河口の邊は、地球上寒極の一と稱せらる、然れども大部は大陸性にして、夏季の熱も亦た甚し。

(四) 人文地理

人種は甚だ多けれども、人口尙ほ稀疎なり。ロシア政府昔は囚徒を送り、今は専ら移民を奨励して、シベリアの開拓に熱中す。

行政上西部シベリアはこれを内務省の直轄とし、其の他はこれを二つの總督管區に分つ。兵備は著しく増大せられ、ウラジオストク軍港の防備は極めて堅固なり。

農産畜産及び鑛産に富み、特に金の産出、近來次第に増加し、又カムチャツカ半島附近の海上は、水産極めて豊富なり。内

土人は次第に絶滅せんとす

コサック兵は屯田の制にして驍勇の聞えあり

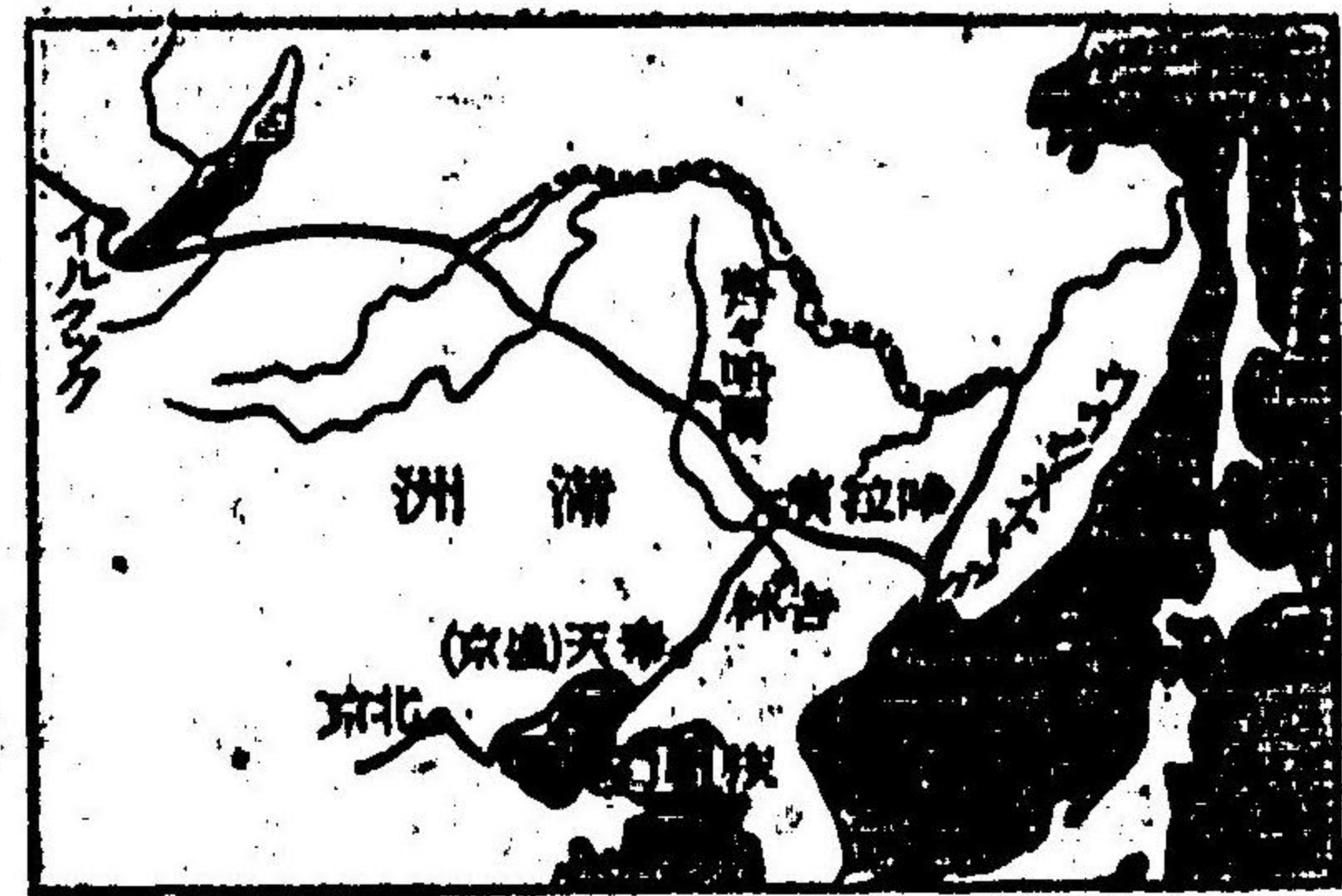


地商業は年市により、ヨーロッパの精製品とシベリアの天産物とを交換し、外國貿易はウラジオストク・ニコライエフスクの二開港場及びキヤクタの陸路貿易場を以て重なる中心とす。

陸路の交通には官道の驛に馬車及び橇の散けあり、橇は馬犬又は馴鹿を用ひ、これを牽かしむ。最も重要なる郵便線路はウラジオストクより、

イルクツクを經、チニリメンに至るもの及びキヤンタより北京に至るものこれなり。

シベリア大鐵道は、西はロシアのチニリアピンスクより起り、中



部東道鐵大アリメン

ペリア中部の都なるイルクツクに至り、バイカル湖の岸に達し、黒龍江水運の中心たるブラゴベシチエンスクを過ぎ、ハバロフスクを經、ウラジオストックに達すべき計畫にして、全長殆んど五千哩あり。此の中バイカル湖以西既に開通し、湖上は汽船にて連絡し、ハバロフスクより

シベリア鐵道に於ては、一月餘にして世界を一周することを得べし。

世界の交通に於ては、商業、軍事、外交上の至要なる關係を有す。

四大河の本流に於ては、人口の増加と共に、水力の利用が盛んとなり、大平洋まで殆んど間断なく水運を開き得べし。

ウラジオストックまで亦た落成せり。ハバロフスク、バイカル湖間の大部は、工事困難なるにより、別にシベリア鐵道の幹線より分岐し、滿洲を經て、ウラジオストックに達すべき東清線を経營し、これより又支線を出し、盛京を經て旅順口及び大連灣に達す、これを南部滿洲支線と稱し、通じて全長凡そ一千九百哩、今や殆んど全く開通せり。近時長距離の乗客賃金を低減し、凡そ二千哩に付き十七圓餘となせしより、乗客の増加甚だ大なり。

水路の交通には、河湖の水利甚だ大にして、四大河及びバイカル湖は、汽船の往來盛んなれども、冬季久しく氷結するを缺點とす。沿海の交通には、北氷洋岸は殆んどこれを利用し得べからず。大平洋岸は義勇艦隊、日本郵船株式會社

近時大阪の大家七平日本海航路を開始せり

を始めとし、夏季漁船の定期航海盛んなり。郵便電信の設は次第に普及し、ヨーロッパへ陸上電線、樺太島及び長崎へ海底電線を通ず。

ハ、地方誌。

區劃。地勢上シベリアを大別して左の四部とし、又行政上全土を四省・四州・一島に分つ。

- ル、西部シベリア
 - トボルスク省。
 - トムスク省。
 - Tomsk
 - イルクツク省。
 - Irkutsk
 - 外バイカル州。
 - Transbaikalia
 - ヤクーツク州。
 - Yakutsk
 - イニセイスク省。
 - Yeniseisk
- リ、東部シベリア
 - 黒龍江州。
 - 沿海州。

我が舞鶴の港を距るに僅かに五、百と



ウラサオスクトク港の其

d. 樺太島。

今左に重もなる都邑を記すべし。

ウラジオストク。大平

洋岸ペテロ大帝灣頭に位

Peter the Great

し、シベリア第一の開港場

シベリア大鐵道の起點、大

平洋艦隊の根據地にし

てシベリアの門戸とも稱

すべく、鎮守府造船所砲

臺の設けありて、軍港の

防備甚だ堅固なり。毎

イメンまで汽船を通ず。

トボルスクはオブ河の支流たるトボル・イルチシ二河の會合點に位し、トボルスク省の首府なり。

二、中アジア。

Central Asia

中アジア及びカフカスはカスピ海を隔て、相對し、地勢上西部アジアに屬すれども、シベリアと共にアラフシヤの全部を成すを以て、左にこれを配すべし。中アジアなる名稱は、ロシア行政區劃上の名なれば、地勢上の區分たる中央アジアと混すべからず。

中アジアはシベリアの南西に當り、面積凡そ我が國の九倍あり。地勢概ね沙漠又は草原にして、西にはカスピ海中にアラル海、東にバルハシ湖を控へ、シルナム・伊犁等の内陸河これ等の諸湖に入る。氣候は大陸性にして、雨量甚だ少し。草原には羊、馬、駱駝、河谷には綿花、果物の産あり。

カスピ海は我が國の面積より少く、其の水深は凡そ九尺に過ぎず。所は最も深き所は同海面より二百尺に達す。

無毛の地多ければ、人口未だ密ならず。人種はトルコ種最も多く、近時ロシア人の移住者次第に多し。住民は概ね回教を信じ、多くは遊牧を業とし、又は駱駝に乗り、商隊を編して、陸路貿易を營む。ロシアは軍政を布きてこれを治め、各部の酋長を統御し、全土を二つの總督管區に分つ。

カスピ海及びシルナムの二大河は汽船を通じ、外カスピ海鐵道はカスピ海の東岸より起り、清國の西境に達し、全長凡そ一千四百哩、ロシアの中央アジア經營上、其の關係至て大なり。

行政上草原、トルキスタン、外カスピの三部、及びボハラ、ヒバの二屬國に分る。

タシケントはシル河の流域に位し、總督の駐在地にして、サマルカンドは帖木兒の舊都なり。オムスクは北部の都會にして、イルチシ河の岸に位し、總督の駐在地なり。メルフはトルキスタン地方の都邑にして、外カスピ鐵道の要點を占む。

ボハラ及びヒバはロシアの屬國にして、各同名の首府あり、土人の君主あれど

も實權は全くロシア政府にあり。

三、カブカス。

コーカサス
Caucasus (Kavkas)

カブカスは黒海及びカスピ海の中間に位し、面積我が國より少しく大なり。カブカス山脈東西に走りて、全土を二分し、其のダリエル峠は軍用上、大切な通路を成す。

人口はシベリア及び中アジアよりは密なれども、我が國よりは遙かに疎なり。人民は容貌優美にして、音樂を好み、回教を信ず。

氣候は東部を除く外、稍溫和にして、河谷は農産少からず。又バクの石油は世界有名の物産にして、我が國へも盛んに輸入す。

チフリスはクラ河の岸に位し、總督の駐在地にして、商業盛

石油の輸送は鐵道に依る外、時に長距離の鐵管を通じて直ちにカスピ海の岸より黒海の岸に致せり。

大なり。バツームは黒海、バクはカスピ海の岸に位し、共に堅固なる砲臺あり、軍事上及び商業上大切な港なり。

第三節 南部アジア

南部アジアはシヤム・チパール・ブータン(第四章に出づ)を除き、マライ諸島、印度支那及び印度の三部に分る。

一、マライ諸島。

マライ

アジア・オーストラリア兩大陸の間に横はれる諸島を東印度群島と云ふ。東印度群島は地球上の大皸裂地帯に當り、ジャバ島には活火山の數甚だ多し。面積甚だ小なるクラカタウ島の大破裂は、明治十六年八月に起り、全地球上の氣界を混濁し、近海の海面及び海底に大變化を與へたりき。諸島の位置熱帯に横はり、且つ一部は赤道直下に位するが故に、

Krakatau

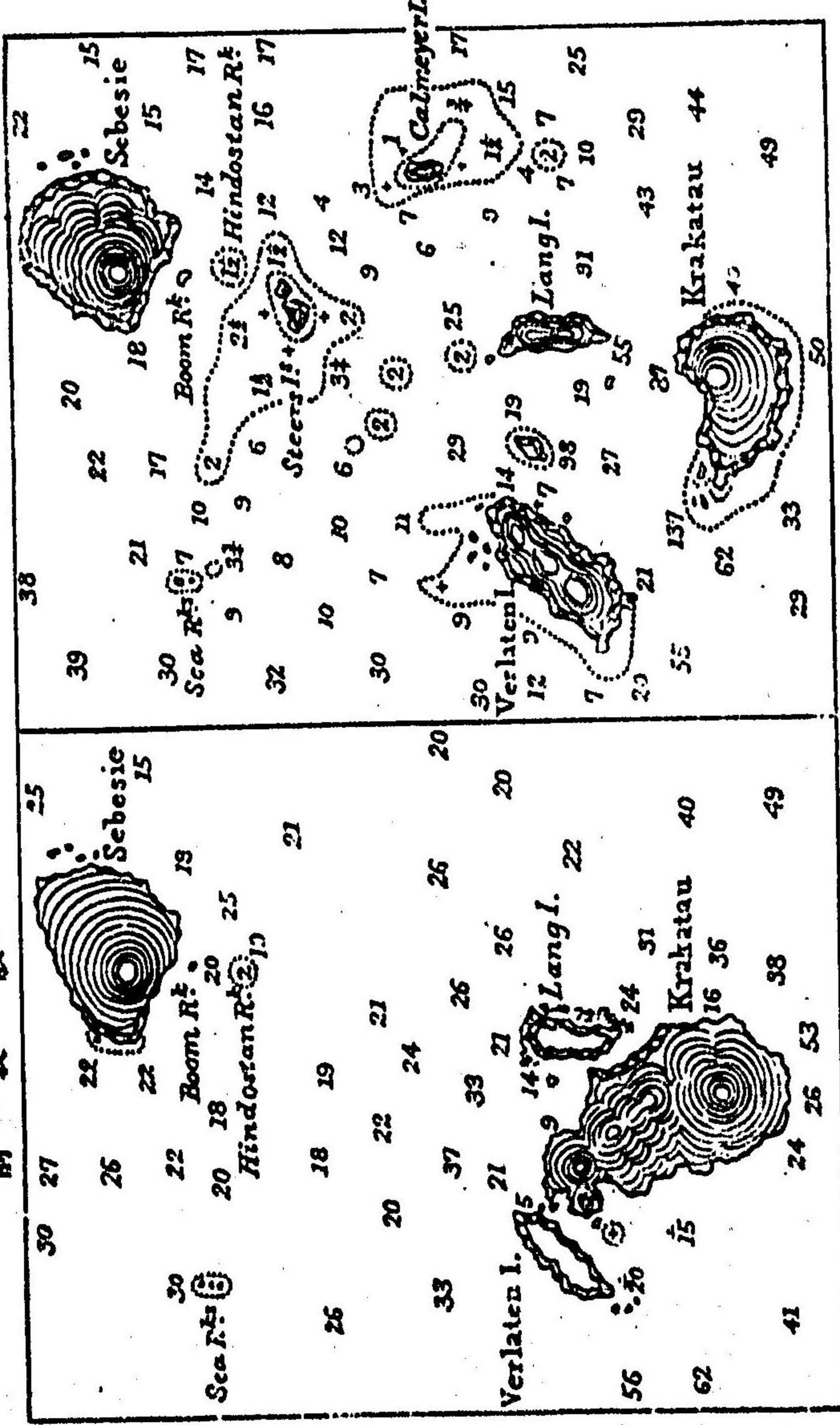
のなり。而してバリ・ロンボク兩島間の海峡は水著しく深く、且つ生物分布の境界線を成し、これを稱してワレース線と云ふ。爰にマライ諸島と云ふは即ち東印度群島の一部にして、ワレース氏線によりて、アジアに屬すべきものを總稱し、マ



ワレース線の圖

氣温常に高く、且つ季節風の影響を受け、雨量甚だ多し。フィリピン諸島近海は大風の起源地として、東亞の氣候上特に有名なる地方なり、人種はマライ種最も多く、支那人も少からず。言語にはマライ語を第一とし、ネーデルラント(オランダ)語・イスパニア語亦た多く行はる。諸島の中精密に論ずれば、一部はアジアに屬し、一部はオーストラリアに屬すべきものなり。

前 後 及 島 諸 島 近 後 破 破



数字ハ等温線ヲ示ス

ジャバの甘
糖産額は
世界の四分
の一に當る

イギリス領はボルネオの北部のみに過ぎず、アメリカ合衆國領はフィリピン諸島にして、此の中最も大なるルソン島はバシフィックを隔て、我が臺灣の南方に對し、烟草、砂糖の産多く、我が國に輸入する額も少からず、首府をマニラと云ひ、同名は錫に富む。

ボルネオは世界第三の大島にして、金、金剛石の産多く、パンカは錫に富む。

イギリス領はボルネオの北部のみに過ぎず、アメリカ合衆國領はフィリピン諸島にして、此の中最も大なるルソン島はバシフィックを隔て、我が臺灣の南方に對し、烟草、砂糖の産多く、我が國に輸入する額も少からず、首府をマニラと云ひ、同名は錫に富む。

もとイニ
アの領地
なりしが
衆國に歸
せし後、
若人久し
く服従せ
ざり

マニラ及附近



(1) マニラ (2) カビテ (3) セブ (4) ザンボアンガ (5) ミンドロ

マニラに臨み、南洋交通の要點を占め、日本郵船株式會社の航路に當り、本邦在留人甚だ多く、我が領事館あり、カビテの軍港はマニラの附近にあり、合衆國はスピクを以てこれに代へ、海軍根據地として壯大なる經營を施せり。又マニラに至る太平洋海底電線は、遠からずして將に成らんとす。

二、印度支那。

Indo-China

印度支那は更らにフランス領・シヤム王國・イギリス領の三部

出に富む、マンドレ及ビラングーンは重もなる都邑なり。
Mandley Rangoon

三、印度。

India

(イ)地文地理。印度はアジア大陸の南方に突出する大半島にして、一にこれを前印度と云ふ。其の區域北はヒマラヤ山系及びパミル高原を以て清國及びロシア領中アジアに接し、南は印度洋に面す、面積凡そ本邦の十倍餘あり。東はベンガル灣、西はアラビア海に面すれども、海岸屈曲に乏し。南東岸にコロマンデル沿岸、南西岸にマラバル沿岸の名あり。屬島多からず、南東のセイロン島最も大なり。
Coromandel Malabar

印度半島は地勢上ヒマラヤ山系印度平原及びデカン高原の三部より成る。ヒマラヤ山系は非常なる高度を有し、ガッリサンカル(一名エベレスト峯)は其の高さ凡そ二萬九千尺にし
Gaurishankar Everest



部一の系山ヤラマヒ

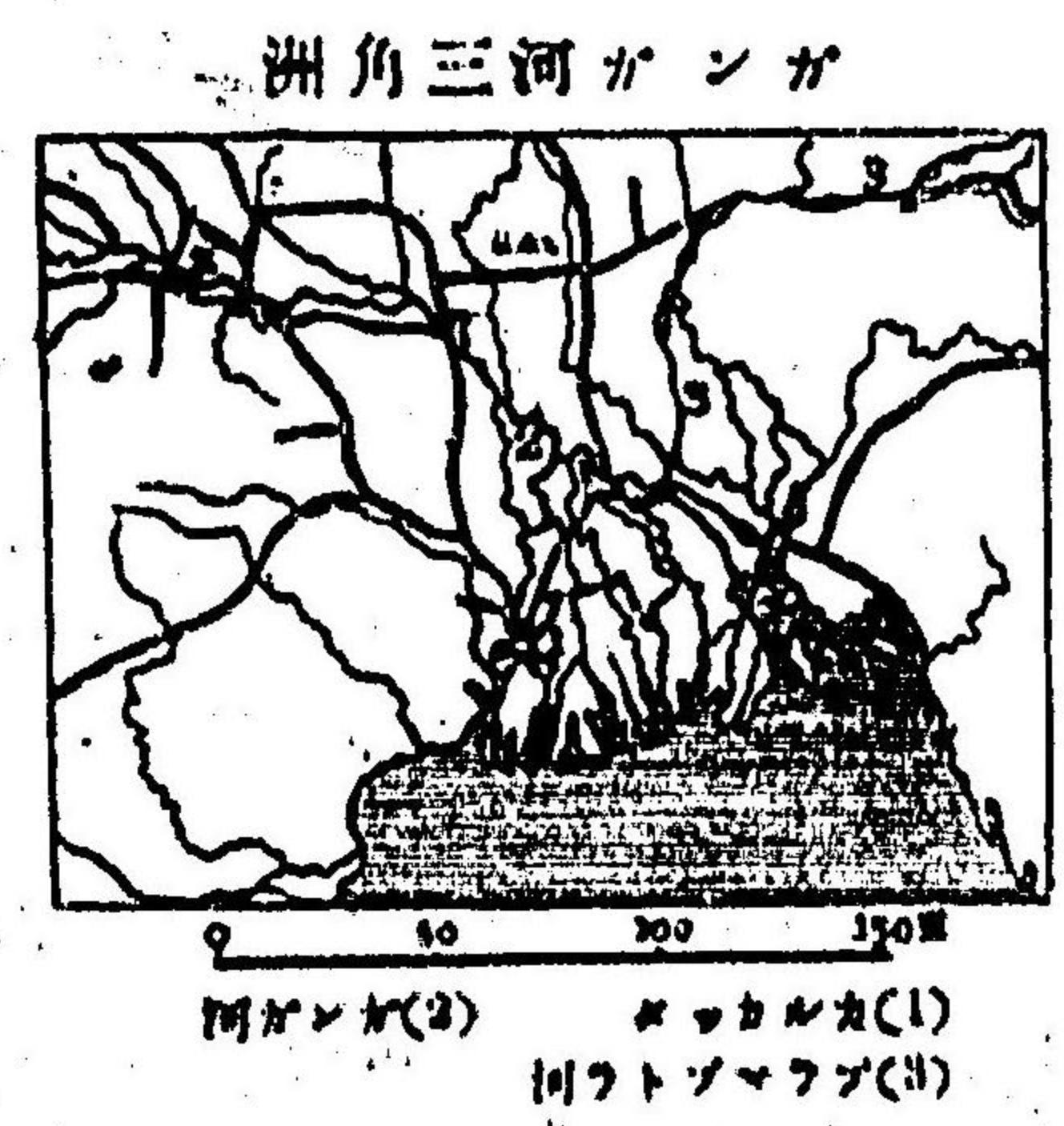
て、世界第一の高峰たり。印度大平原はインドス・ガンガ・ラマプトラ三大河の貫流する所にして、又其の一部に印度(タール)大沙漠あり。
India

ガンガ河は婆羅門教徒の最も神聖視する所にして、西藏より來れるブラマプトラ河と相合し、河口に世界第一の大三角洲を成す。インドス河の水源はブラマプトラと遠からずして、ヒマラヤ山系を横斷
Brahmaputra India

し、印度の北西部なるパンジャブ(五河)地方に於て、諸大河を合せ、河口に大三角洲を作りて海に入る。



勢地の度印



洲角三河ガンガ

地勢一ならざれば、氣候隨て多様なり。ヒマラヤ山地の下部は溫和清涼にして、避暑の別天地を成し、其の上部は千古絶えざる雪を湛えて、世界に比類なき大氷河を作れり。デ

カン高原の南部も暑熱甚しからず。印度大平原の低地は高温多雨にして、コレラ及びペストの巢窟なり。而して季節風(信風)の影響を受け、雨は夏季に最も多く、ガンガ河の流域には世界最多の雨量あり。稀れには季節風の勢弱くして、降雨欠乏し、これと共に有名なる大飢饉を起し、俄卒野に満つるに至る。

(ロ) 人文地理

人口凡そ三億、其の人種はヒンヅー種を主とし、ドラービダ種(Dravid)これに次ぐ。ヒンヅー種は印度大平原に多く、ドラービダ種はデカン高原に多し。

ヒンヅー種はサンスクリット語を用ひ、波羅門教を奉ず。階級の制甚だ嚴にして、四大別あり。ゾラーマン即ち僧族第一

位を占め、兵族これに次ぎ、商農等を含める族又これに次ぎ、最下級に位するを賤民とす、階級異なるものは互に交通せず。

印度は人種言語宗教甚だ多く、國の統一得て望む可らず。宗教には波羅門教徒最も多く、回教徒これに次ぐ。此の國は佛教起源の地なれども、本邦に於ける如く行はれず。教育は未だ盛んならず。

印度は往古より文明の程度高く、我が國上古の發達も此の國文化の輸入大に與て力あり。然るに今はヒマラヤ山系の二小國と沿岸二三の小區域を除き、全くイギリスの掌中に歸せり。

イギリスの統治上全半島(直轄植民地たるセイロン島を除

學齡兒童百人中男子は二三、女子は二・五の就學者あるのみ

くにバルマを加へ、これを以て印度帝國と稱し、イギリス皇帝は其の本國たる合衆主國の王、諸植民地保護地屬地の君主たると同時に、印度皇帝の稱號を有す。

行政上印度帝國を二大別して直轄部及び藩部とし、直轄部を八州に分ち、マドラス、ボンベイの二州には總督、其の他には副總督又は長官を置く。藩部は數多の小國に分れ、其の重なるもの凡そ四十ありて、最も大なるものは面積凡そ一萬五千方里に及ぶ。而して印度大總督は首府カルカッタに駐在して、全土を總轄す。

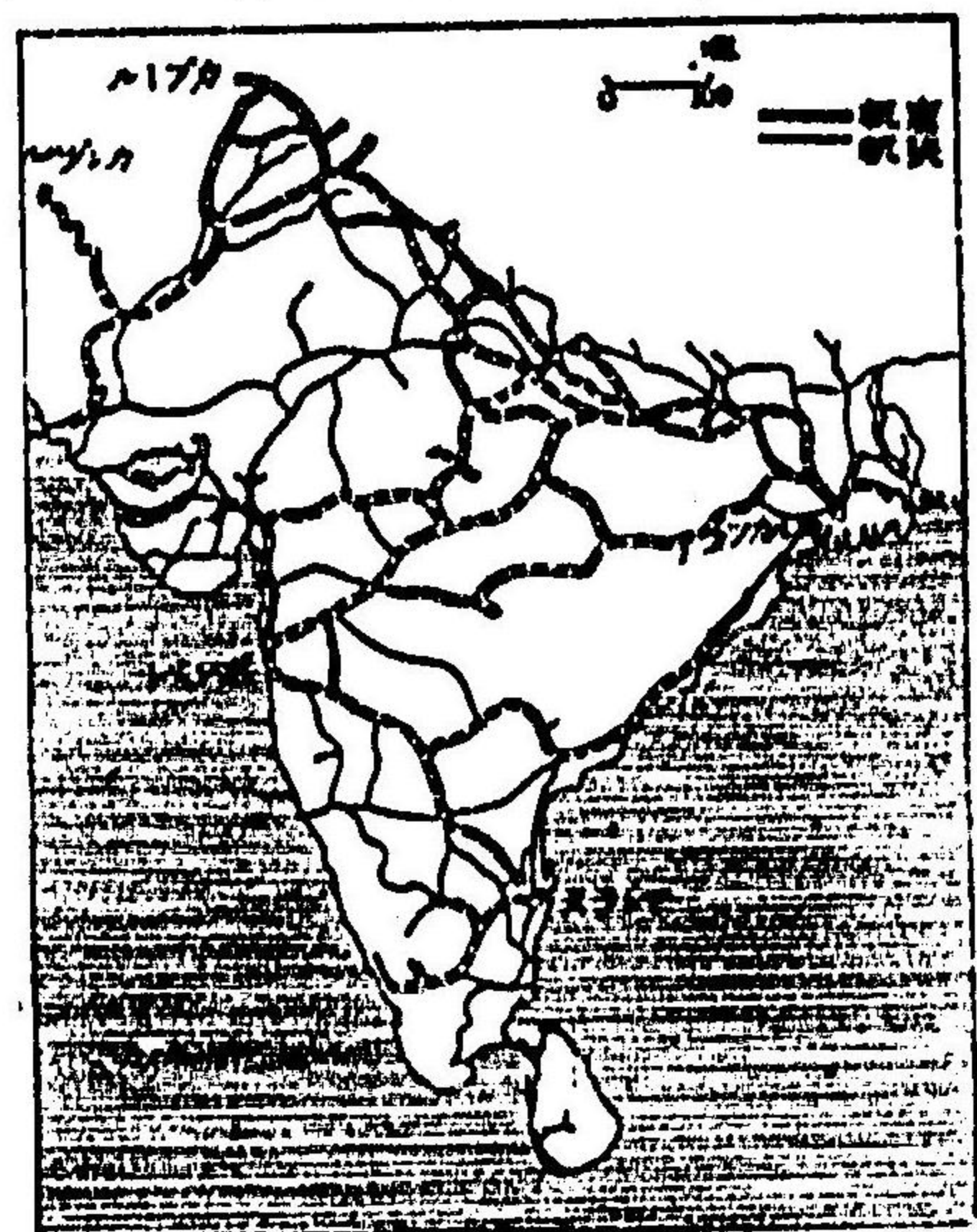
耕地の面積廣大にして、氣候高温なれば、天産甚だ豊かなり。特に近年巨大なる運河を開らきて、灌溉の用に供し、有爲なる學生をヨーロッパに送りて、農事改良の方法を講習せ

藩部の君主はイギリス人の監理官を顧問とす

象は家畜として用ひらる。猛獣及び大蛇の害甚だ大なり。

い、め、其、の、他、農、學、校、及、び、農、事、試、驗、場、の、建、設、等、專、ら、農、業、の、進、歩、を、圖、り、し、か、ば、其、の、收、獲、一、層、の、盛、大、を、來、た、し、綿、米、麥、阿、片、黃、麻、茶、藍、菜、種、は、印、度、の、重、も、な、る、農、産、品、と、な、れ、り。地、勢、氣、候、一、な、ら、ざ、れ、ば、植、物、の、種、類、甚、だ、多、く、榕、樹、の、巨、大、な、る、もの、に、至、て、は、樹、下、に、數、千、人、を、容、る、べ、し。礦、物、に、は、金、石、炭、岩、鹽、の、産、多、少、こ、れ、あ、る、に、過、ぎ、ざ、れ、ど、も、動、物、に、は、虎、豹、獅、子、鱒、魚、象、水、牛、大、蛇、等、あ、り。

製糖、綿布、麻布の工業近來次第に起り、實業隆興の兆あり。外國貿易は年々盛んにして、米、綿、黃麻、阿片、茶、菜、種、藍、獸、皮、は、重、も、な、る、輸、出、品、綿、布、金、屬、器、砂、糖、油、機、械、類、絹、布、毛、織、物、は、重、も、な、る、輸、入、品、な、り。其、の、輸、出、入、國、は、イ、タ、リ、ヤ、本、國、を、第、一、と、し、清、國、及、び、ド、イ、ツ、こ、れ、に、次、ぐ。本、邦、と、の、貿、易、も、盛、ん、に、し、



印度の鐵道

て、本邦より石炭、マツチ等を輸入し、本邦へ綿花、藍等を輸出す。我が國綿織絲の原料は多く、これを印度に仰げるものなり。交通は次第に發達し、鐵道は全長凡そ二萬五千哩に達し、ガンガ、プ、ラ、マ、プ、ト、ラ、イ、ン、ド、ス、三、大、河、及、び、數、多、の、運、河、に、よ、り、て、水、利、甚、だ、大、な、り。郵便、電、信、の、制、も、頗、ぶ、る、進、歩、し、海、底、電、線、は、マ、ド、ラ、ス、よ、り、シ、ン、ガ、ポ、ール、を、經、て、東、洋、及、び、南、洋、諸、國、に、通、じ、又、ヨ、ロ、ッ、パ、へ、は、ヘ、ル、シ、ア、を、經、る、陸、上、線、ボ、ン、ペ、ー、よ、り、ス、エ、ズ、を、經、過、す、る、海、底、線、あり。

第三の開港場なり。ツチユリンは海を隔て、セイロン島に對し、日本郵船株式会社の航路に當る。

Tuticorin

ヒマラヤ山系地方は人口疎にして、都會多からず、北部の

スリナガラを稍名あるものとす。

Strinagar

印度に於ける他國の領

地。ポルトガルは西岸の

ヂユ・ダマン及びゴアを領し、

Goa

Daman

フランスは西岸のマデ、東岸

Made

のカリカル、ボンヂシニリーヤ

Kalikal

Pondichery

ナオン及びカルカッタに近きジャンデルナゴルを領すれども、其

Chandernagor

の區域甚だ狭小にして、且つ繁盛なる都府なし。

Tanorin



マンゴ

橋ムダア



橋ムダア(2) 島中庚印(1) 島ノロイセ(3)

印度に於ける獨立國、ヒ

マラヤ山系中にチパール及び

ブータンの二國ありて、第四章

にこれを畧述せり。

印度に於けるイギリスの直

轄植民地——セイロン島、セ

Ceylon

イロン島はゴーク海峡を隔て、印度半島の南東に位し、アダ

Aden

ム橋の地脈を以て、本陸に接せんとす。其の面積我が北州

Bridge

より少しく小にして、氣候高温、肉桂、珈琲茶の産に富み、又寶

石の産あり。首府コロンボは西岸にあり、世界交通の衝に當

Colombo

り、日本郵船株式会社の航路に當る。

第四 西部アジア

西部アジアは地理上イラン諸邦、アラビア及びアジアトルコの三部に分る。

一、イラン諸邦。

イラン高原は邦制上アフガニスタン・ベルチスタン及びベルシアの三部に分る。ベルチスタンはイギリスの保護國にして、ケラットの酋長これを總轄す。アフガニスタン及びベルシアに就ては第四章を見よ。

二、アラビア。

アラビアは世界第一の大半島なり。地勢高原にして、大抵沙漠なり、馬駝鳥駱駝護膜を産し、地勢氣候天産アフリカに似たり。回教の起源地にして、マホメットの生地たるメッカ、其の死地たるメデナ皆爰にあり。全半島は殆んどエジプト及び

メッカ・メデナはトルコ領なり

紅海は世界中最暖の水を有す



トルコの支配に屬し、又獨立の酋長あれども、實際上イギリスの勢力少からず、紅海の口に近きアデンは其の領地にして、交通の衝に當り、貿易盛大にして、スエズ・印度及び喜望峯へ海底電線を通ず。

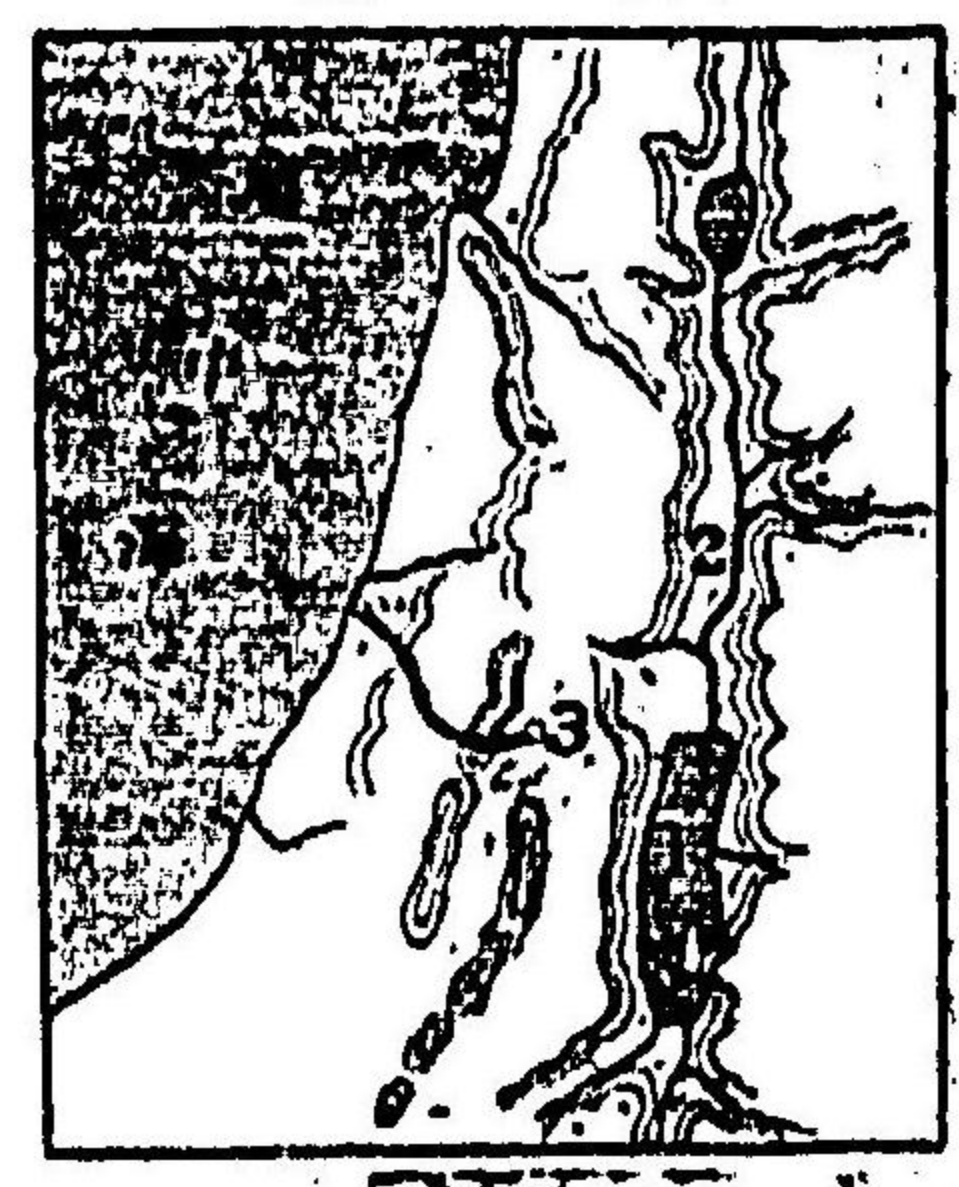
アラビア半島の南東隅なるオマーンの酋長國に就ては第四章を見よ。

三、アジアトルコ。

地勢は一ならず、チグリス及びエウフラト二河の流域は平地廣大なり。小アジア半島は西方に突出し、ボスポロス海峡・マルマラ海・ダルダネル海峡を隔て、ヨーロッパトルコに對す。

南西のキプロス島はイギリス領なり。又死海の面は地中海

死海及附近



死海(1) ムレサルム(2) ヨルダン河(3)



ムレサルム

の面より低きこと凡そ一千三百尺、其の海底の最も深き所は地中海の面より低きこと二千六百尺の窪地に位し、これに流入するヨルダン河の河谷と共に、地質構造上、アフリカ東部の地溝帯に接続す。死海の水は鹽分非常に大にして、百分中凡そ二十五に達し、生物生活する能はず。近傍は基督教の起源地にして、基督の墳墓はパレスチナのイエリサレムにあり。氣候も一ならずして、

Jerusalem

Palentino

穀物、絹、綿、珈琲、阿片、果物の産あり。近來鐵道の發達頗ぶる著しく、ヨーロッパ諸強國皆これに注目するに至れり。

第六章 アジア總論—人文地理

一、住民

アジアの人口は凡そ八億三千萬にして、世界人口の半以上に當る。パミル高原、シベリアの凍土帶、青海地方、ゴビの沙漠は殆んど無人の境多けれども、黄河、揚子江、ガンガ河下流の平原は人口甚だ稠密なり。人種甚だ多し、これを大別して三とす。蒙古種は最も多數を占め、中央及び東部アジアに多し、地中海種これに次ぎ、西部アジア及び印度に多し、マライ種は又これに次ぎ、本洲の南東部に多し。

生業に就てこれを大別すれば、漁獵の民は北氷洋岸より北緯六十五度に至る北帯の區域を占め、遊牧の民はこれより以南北緯三十五度に至る中央の區域と、アラビア及びイタンの地とを占有し、其の他印度・日本・支那・小アジア等に於ては、農耕を業とする定住の民住居す。教育は我が國を除きては、實に云ふに足るものなし。

アジアは重なる宗教の起源地とも稱すべく、其の住民の信奉する宗教は甚だ多し。佛教は東部アジア・セイロン島の印度支那等に行はれ、其の信徒最も多く、回教は西部アジア・印度・マライ諸島に行はれ、波羅門教は印度の人民多くこれを信奉す。基督教は西部アジアの一部に行はれ、又其の布教は本洲の全土に亘りてこれを办む。

二、邦制。

地勢上より見れば、ヨーロッパはユーラシア大陸の一半島なれども、邦制上より見れば、アジアはヨーロッパの附屬たるが如し。獨立國には我が國を除く外、僅かに清・韓・シャム・ベルシヤ等あれども、國勢皆振はずして、他國の制肘を受くること少からず。北部アジアは全くロシアの領地に歸し、南部アジアは、殆んどイギリス及びフランスの領地となり了れり。今邦制上より、アジアを細別すれば左の如し。

一、日本帝國

二、韓帝國

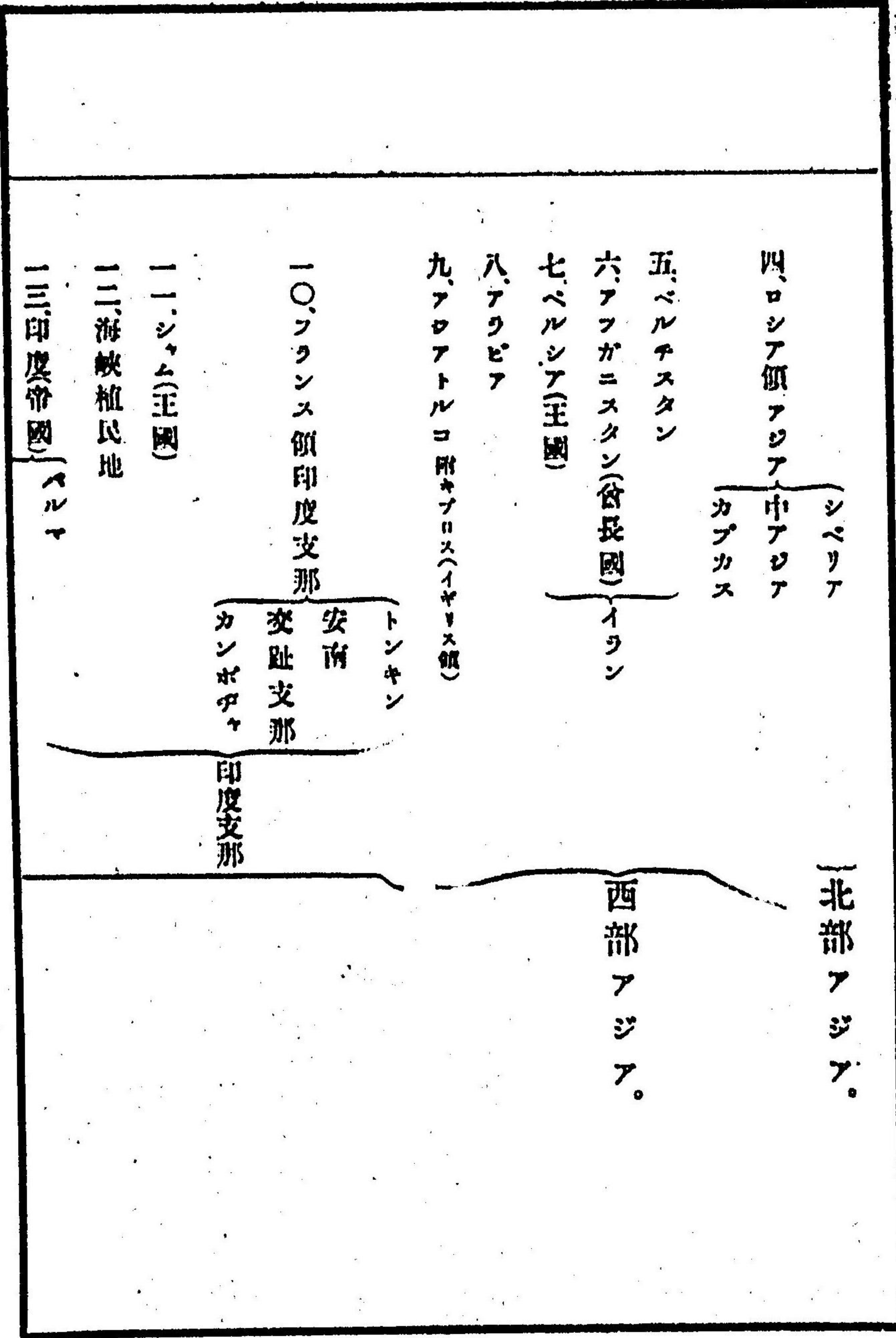
三、清帝國

支那本部 滿洲 附屬地 (イギリス領) 澳門 (ポルトガル領)

東部アジア

蒙古 青海 天山南路 天山北路 西藏 中央アジア

ウリヤム
ロウリン
ウチン



北部アジア。

西部アジア。

南部アジア。

印度半島

附

セイロン

フランス領印度

ポルトガル領印度

マバール(酋長國)

ブータン(酋長國)

一四、イギリス領

一五、オランダ領マライ諸島

一六、合衆國領

三、産業。

アジアの物産に就ては、已にこれを前に述べたり。アジアは斯の如く天産に富むと雖ども、富源は未だ十分に開發せられざるものゝ如し。シベリア南部・支那南東部・印度平原等

の農産、シベリア南部及び支那南部の林産、ベーリング海峽附近の水産、アルタイ・ウラル諸山地の貴金屬、何づれも世に名高し。工業は未だ盛んならずと雖ども、近來印度及び本邦に於けるものはヨーロッパ諸國の勁敵たるを示せり。貿易は次第に盛大を極め、横濱・神戸・上海・香港・カルカッタ・ボンベイは各其の地方貿易の大中心となれり。

四、交通。

道路の開鑿は東部及び南部アジアの沿岸附近を除き、尙ほ不十分にして、内地は重にも馬又は駱駝により、北部にては橇を用ふ。鐵道の敷設は本邦・印度・小アジアに於ては、次第に延長せられ、清韓の内地にも漸次其の發達を見んとす。特にシベリア大鐵道は世界の交通に重要な關係を有し、外

カスピ鐵道は中央アジアの開発上至大なる影響を有す。水路の交通には諸大河の水利あり、就中揚子江を以て第一とす、唯北部アジアの諸大河は結氷期の長き欠點あり。沿岸の交通は甚だ盛んにして、北極洋岸を除く外汽船の往來甚だ頻繁なり。唯東部アジア沿岸の一部は冬期氷結し、支那海の東部は大風襲來の多きと、海賊の時々横行するとを欠點とす。而して横濱より東は北アメリカに至り、西は香港・シンガポール・スエズを経て地中海に至る航路は、地球上の重なる交通路にして、ヨーロッパ・アメリカの諸大汽船會社の船舶往來常に絶えず。而して他大陸へは陸上及び海底電線を通じ、北アメリカよりフィリピンに至る大平洋海底電線の敷設將に成らんとす。

屈曲に乏しけれども、南東部には小なる出入多し。又北東部には珊瑚礁あり、大堡礁と云ふ、長さ凡そ五百里、所々に切れ目ありて、外洋と内海とを通ず。

三、地勢。

内地は少しく低くして、四周は稍高し。南東部の山脈は稍著しく、其の南部にオーストラリア・アルプの名あれども、最高点 コシューシヨ峯も未だ雪線に達せず。内地の西部は多^{Koochazo}く沙漠にして、所々に小山脈及び鹹湖あり。

四、水誌。

他大陸の同長の河に比して、河流の水量甚だ少し。又水量の變化によりて、甚しく洪水の憂あれども、これと共に、沃土を沿岸に堆積す。其の内地流域は頗ぶる廣くして、鹹湖

地勢アフリカに似たり

アフリカの河に似たり

南緯に位するが故に我節反對なり

多けれども、著しき内陸河なし。これ内地の雨量少きと、蒸發盛んになると、砂地に滲透するによる。

マルレー河は長さ五百里に餘り、本大陸第一の大河にして、雨季には水利至大なれども、河口の淺きを缺點とす。

五、氣候。

面積廣大なれば、氣候一樣ならず。沿岸北部は熱帶性、南部は温帶性の氣候を有し、高地には冬季積雪を見る。洪水旱魃共に甚だしく、牧畜の損害少からず。内地は雨量極めて少く、寒暑の差甚だし、熱風起るときは、樹蔭に於ても攝氏五十度を超ゆることあり。

第二節 人文地理

一、人民。

人口凡そ三百八十萬面積に比して、人口未だ密ならざれども増加の割合甚だ大なり。概ねイギリス人にして、土人は甚だ少く、且つ次第に絶滅す。これ等の土人は野蠻にして定住せず、蛇蛙を食ひ、食人の陋習を存す。

所によりて
は一人に付
き約千圓を
課す

移住支那人は次第に多きを加へしを以て遂に禁止的の人頭税を課するに至れり。本邦人も近來次第に増加し、各州は其の移住に制限を加へんとする傾向あり。

二、政治。

全土イギリスの領地にして、もと五個の植民地に分れ居りしが、近時改めてこれを州とし、タスマニアをも合して、オーストラリア聯邦と稱し、大總督を置き、以て政治上の統一を計れ

South of Australia

Commonwealth

り。各州には總督を置き、内政は自治なり。

三、産業。



樹リカ - ユ

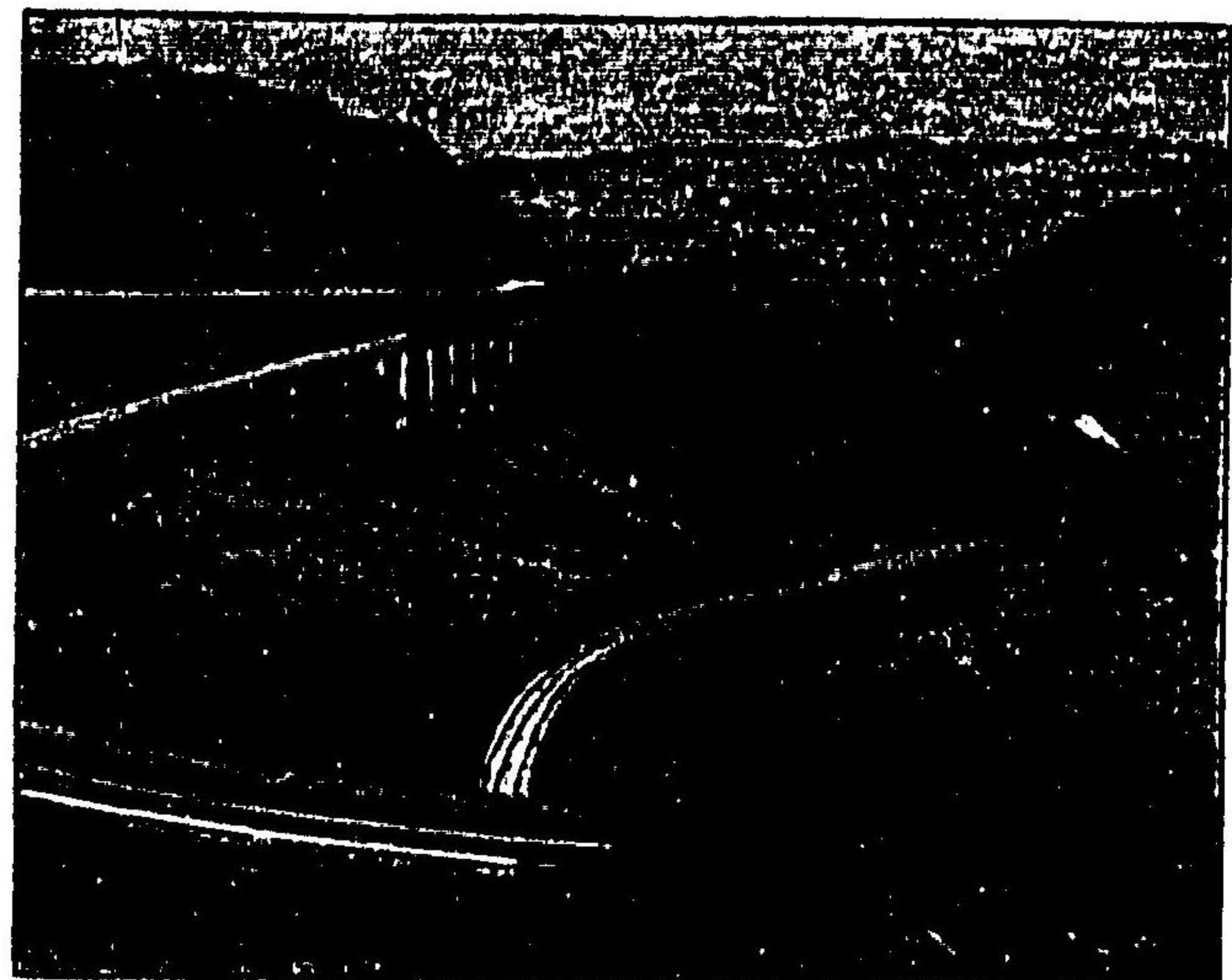
Eucalyptus



鳴嘴獸及カビガンル

天産植物は珍奇なる種類に富み、高さ五百尺に達するユーカリ樹あり。動物も亦た奇異なる種類を存し、カンガルー及び鳴嘴獸Macropusの如き奇獸あり。然れども今日オーストラリアの富源たる家畜及び穀物の種子は皆元來ヨーロッパより輸入せられしものにして、羊の頭数は現今地球上第一に位す。又沿岸には眞珠貝の産少からず。

鑛産に富裕にして、地球上大産金地の一なり。又石炭の産に富み、東洋の市場に於て、本邦産と競争の位置に立てり。



オーストラリア山地の鐵道

外國貿易は産業の進歩と共に次第に發達し、輸出品の主要なるものは金及び羊毛なり。我が國との貿易も次第に盛んにして、我が國より米及び魚油を輸出す。

四、交通

交通は次第に進歩し、特に南東部に於ては、鐵道の

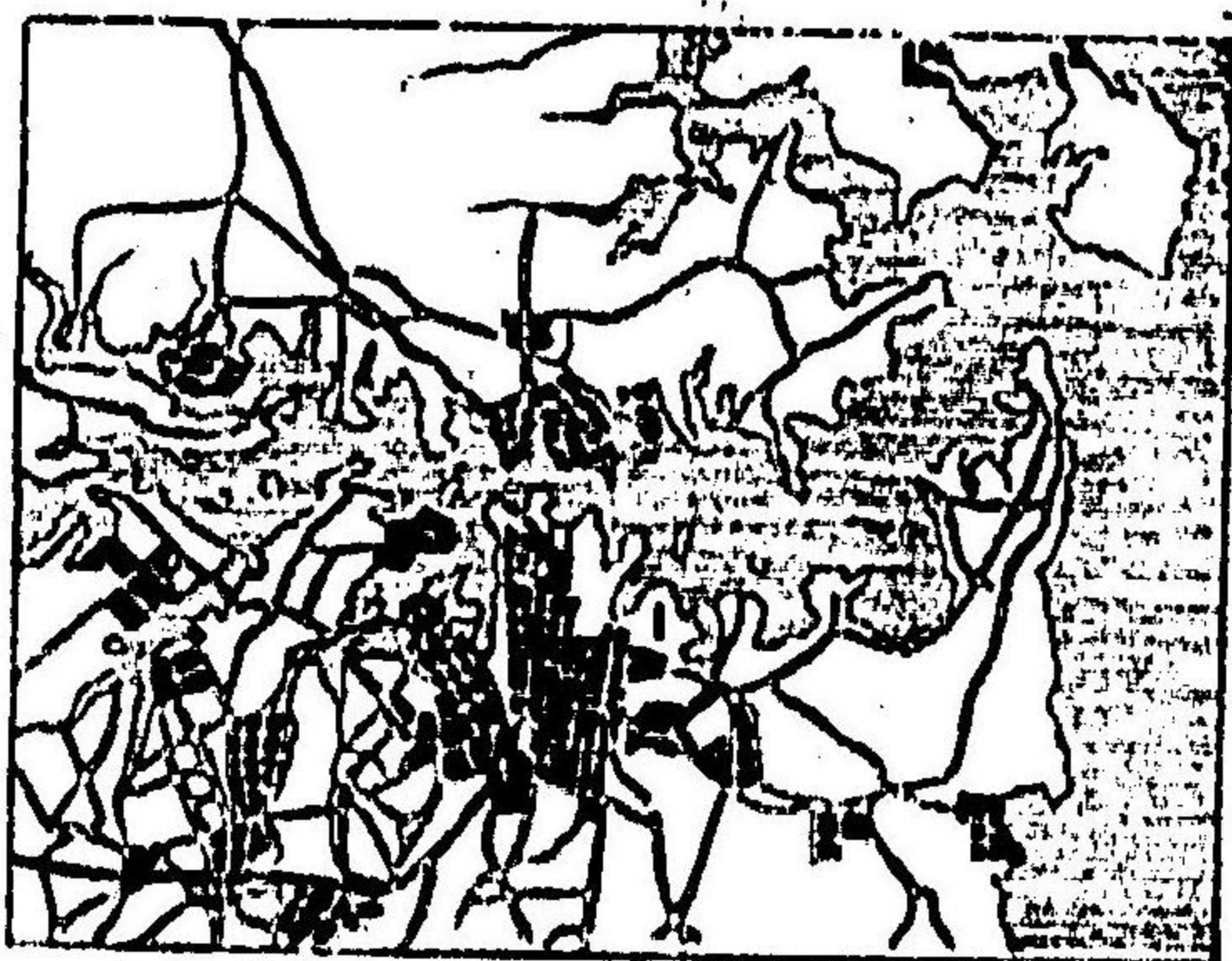
發達最も著しく、山地を横斷するものあり。電線は大陸の中央を横斷し、又海底線によりてアジア及び南部アメリカ等に通ず。

沿岸及び他大陸間汽船の往來盛んにして、我が日本郵船株式會社の汽船も、横濱より香港を経て、本大陸の沿岸諸港に至る。

第三節 各州誌

一、オーストラリア本陸。

ニューサウスウェールズ州の首府シドニーは、オーストラリア最古の都府、炭田の中心、安全なる良錨地、オーストラリア艦隊の根據地にして、要塞の設け甚だ堅固なり。本港は又日本郵



船株式會社の航路に當り、我が總領事館の設けあり。

ビクトリア州の首府メルボルンは、人口に於ては、オーストラリア第一の都會にして、日本郵船株式會社の航路に當る。本州はニューサウスウェールズ州と共に金の産出を以て名高し。

クイーンズランド州の首府をブリスベーンと云ふ。其の北西のタウンズビルに我が領事館あり、附近は我が國人の在留するもの甚だ多し。本州の北方にはヨーク半島突出し、トレンス海峽を隔て、ニューギニアに對す。此の海峽中に木曜島あり

り、眞珠貝の産出に富み、我が國人の在留するもの甚だ多く、
ブリスベーン及びタウンズビルと共に日本郵船株式會社の航
路に當れり。

南オーストラリア州の首府を阿德レードと云ひ、西オーストラ
リア州の首府をパースと云ふ。
Adelaide Perth

二、タスマニア州。

寒暑氣温の
差非常に少
く且つ空氣
は多量の
「オゾン」
を含む

タスマニアはバス海峡を隔て、オーストラリアの南方に位
する一大島にして、輪廓は心臟形を成し、地勢山多く、沿岸屈
曲に富み、氣候の良好なること世界第一と稱せらる。

住民は殆んどイギリス人にして、此の外多少の支那人あり、
土人は近時全く絶滅せり。此の地は造船用材に富み、鑛産、
農産及び牧畜甚だ盛んなり。唯狼の一種ありて、羊に危害

を加ふるは惜むべし。

首府をホバートと云ふ。本島はもと植民地の制を布きし
が、今はこれを州と改稱し、オーストラリア聯邦の一部を成す
に至れり。

第二章 マライシア

Malaya

一、總説。

爰にマライシアと稱するは、東印度群島の一部にして、オー
ストラリアに屬すべきものを含む。

マライシアに含まれたる島嶼の中、主要なるものは、セレベ
ス・セルッカ及びスンダ諸島の一部にして、多くはチーデルラン
ドの領地なり。

オランダ領
東印度總督
の支配に屬
す

二、各島誌。

セレベス島はボルネオの東にあり、其の輪廓K字の如く、又
Celebes 海燕の如し。火山多く、地震も少からず。セルッカ諸島はセ
Sulawesi レベス島の東にありて、香料の産に富む、有名なるマカリ、ンス氏
Macassar 世界週航の目的も、亦た此の地に達するにありき。其の中
Solo ジロロ島は形奇にして、セレベス島に類似す。

第三章

ポリネシア

一、總説。

ポリネシアは大平洋中に於ける大小無數の島嶼を總稱し、
 二三の大島を除く外、珊瑚島に非ざれば、火山島なり。珊瑚
 島の高さ及び面積は共に小なるを特性とす。海風常に吹

くを以て、小島に於ては、熱帯の苦熱を感ぜず。又麵包樹の
 如き特有植物を産し、土人はこれを常食とす。

ポリネシアを分て三部とす、其の一、メラネシアはニューギニア
 よりフィジー諸島に至るまでを含み、其の二、ミクロネシアはメ
 ラネシアの北方に連れる諸島にして、大部は赤道の北に位し、
 ポリネシア本部は大平洋東部の諸島を含む。

ポリネシアも亦たすべてヨーロッパ諸強國の領地にして、フ
 ランスはポリネシアの東部及びニューカレドニア、ドイツはメラネ
 シアの北部及びミクロネシアの大部、チーデルランドはニューギ
 ニアの西部、イギリスは其の他の部分を領す。

ポリネシアの土人は次第に減少し、其の絶滅の日は遠から
 ざるが如し。人種は一ならず、食人の陋習を存するものあ

れども、性質大抵溫和なり。

今各部に就き、重もなる二三の島を左に畧記すべし。

一、メラネシア。

Melanesia

(イ) ニューギニア。 ニューギニア(バプア)はオーストラリアの北方

New Guinea

Japan

に位し、面積殆んど我が國に二倍し、世界第二の大島なり。

輪廓恰も龜の如く、大山脈は中央を貫ぬき、二萬尺内外の高

峯少からず。氣候濕熱なるを以て、熱病多く、低地には土人

すら住居に堪へず。且つ森林鬱蒼、土人強暴なるを以て、内

地の地理は尙ほ明かならず。人種はバプア種にして、毛髮

羊毛の如く卷縮し、フィリピン諸島に於ける如く、水上生活を

爲すもの少からず。ドイツ・チーダルランド・イギリスこれを

分ち領す、ドイツ領はこれをカイザルウィルヘルムランドと云

Kaiser Wilhelm Land

ふ。

(ロ) ニューヘブライツ。 ニューヘブライツはソロモン諸島の南東

New Hebrides

にあり、概ね火山島にしてイギリス及びフランスの保護地な

り。北部の人民は野蠻にして、食人の陋習あり。

(ハ) ニューカレドニア。 ニューカレドニアはニューヘブライツ諸島の

New Caledonia

南にあり、氣候良好、礦物に富み、特にニッケルの産多し。フラ

ンスはこれを領し、囚徒を送るの地に充つ。在留本邦人亦

た甚だ多し。

(ニ) フィジー諸島。 フィジー諸島はニューヘブライツ諸島の東

Fiji

にあり、大小二百餘の島嶼より成り、全島火山質なり。風土

良好にして、熱帯性植物繁茂し、砂糖、果實、木材の産多く、且つ

良好なる港灣に富み、大平洋交通の要衝に當る。

北アメリカ
西岸諸港
ニューギニア
ニューヘブライツ
フィジー諸島
ニューカレドニア
ニューヘブライツ
ソロモン諸島
カイザルウィルヘルムランド
イギリス領
ドイツ領
フランス領

三、ミクロネシア。

(イ) マリアナMariana (一名ラドロナ) 諸島、マリアナ諸島は小笠原島の南にあり、其の火山脈は富士火山脈に連る。もとイスパニアの領地なりしが、其の中最大なるグアム島は近時これをアメリカ合衆國に讓與し、其の殘餘はこれをドイツに賣り渡したり。

(ロ) ペリニーPeleu (一名バラオ) 諸島及びカロリナ諸島、これ等の諸島は一部珊瑚島にして、一部火山島なり。もとイスパニアの領地なりしが、マリアナ諸島の一部と共に、近時これをドイツに賣り渡したり。

(ハ) マルシャル諸島、これ等の諸島も珊瑚島にして、カロリナ諸島の東にあり、同じくドイツ領なり。

其の他ミクロネシアに屬する諸島は皆イギリス領なり。

四、ポリネシア本部。

サントウイ
チ諸島を指
してハワイ
諸島と通稱
すること多
し

(イ) サントウイSandwich 諸島、アジア及び北アメリカの中間に位し、極めて重要な位置を占む、最大島をハワイと云ひ、大火山多く、常に熔岩を噴流し、極めて壯觀なり。氣候炎熱なれども、良好にして、養生に適す。もと獨立王國なりしが近年アメリカ合衆國に合併せられ、其の一地方を成すに至れり。

地味豊饒にして、甘蔗糖の産出甚だ多く、我が國人の在留するもの殆んど六萬に及び、總人口の凡そ三分の一を占め、皆甘蔗の耕作に使役せらる。首府Honolulu、はオアフ島Oahuにあり、我が東洋漁船株式會社の航路に當り、又我が總領事館の設けあり。

(ロ) トンガ諸島。フィジー諸島の東方にあり、多くは珊瑚島、一部は火山島なり。イギリスの保護國にして、土人の王これを支配す。

(ハ) サモア諸島。トンガ諸島の北方に位する火山島にして、

近時まで獨立の王國なりしが、遂に大部はドイツ領、殘餘はアメリカ合衆國領となれり。

(ニ) ソサイチー諸島。サモア諸島の東方に位し、火山質にして、

景色絶佳、大平洋の公園と稱せらる、フランス領にして、最大島をタヒチと云ふ。其の位置、パナマ運河開通の後、は世界交通の要點となるべし。

五、ニュージージーランド。

ニュージージーランドはオーストラリアの南東に當り、重もに南北

全地球上に對して對稱の位置を占む

ニュージージーランドの北東に世界の第一の深さあり、その深さ凡そ三萬一千尺



住民は重もにイギリス人なれども、少數の土人あり、マオリ種と云ふ、多くは北島に住

の二大島より成り、輪廓は長靴の如く、イタリアに似たり、但し其の方向を異にす。山脈は全土を縦貫し、南島に於ては、雪線を抜く高峯ありて、氷河の現象に富む。北島に於ては、火山現象盛んにして、泥火山間、欝泉及び噴氣孔甚だ多し。地形狹長にして、南北に亘り、且つ高山脈あるを以て、氣候は一ならず。

オーストラリアに於ける如く穀物の種子は元來家畜は元來より輸入せしものなり

等の礦物多く、又穀物家畜の産に富む。海底電線及び汽船の定期航海によりて、本島とオーストラリア及び他大陸間の交通は甚だ便あり。ウタリントンはニュージーランドの首府、オークランドは全島第一の都會にして、共に北島にあり。
Wellington
Auckland

最近中學地理教科書 外國之部上卷終

the end

最近中學地理教科書外國之部上卷附表 (概一九〇二年二月出 版英國政家年誌に據る)

アジア洲之部

地名	面積 一〇〇〇方哩	人口 一〇〇〇位	摘要
アジアロシア	六、五六四	二二、六九八	一八九七年二月廿八日調査
(シベリア)	四、八三四	五、七二七	同
(中アジア)	一、五四九	七、七三二	同
(カフカス)	一八一	九、二四九	同
日本	一六一	四六、八八二	明治三十二年末日調査
韓	八二	八、〇〇〇乃至六、〇〇〇	
清	四、二三五	三九九、六八〇	
(支那本部)	一、三三三	三八三、〇〇〇	
(滿洲)	三六二	七、五〇〇	
(蒙古)	一、二八八	二、〇〇〇	
(西藏)	六五二	六、〇〇〇	

附表

(シンガリア)	一四八	六〇〇
(東トルキスタン)	四三二	五八〇
直隸省	五八	一七、九三七
山東省	五五	三六、二四八
山西省	六七	一一、二一一
河南省	六一	二二、一一六
江蘇省	三七	二〇、九〇五
安徽省	五三	二〇、五九六
江西省	六七	二四、五三四
浙江省	三五	一一、五八九
福建省	四一	二二、一九一
湖北省	六六	三四、二四五
湖南省	七四	二一、〇〇三
陝西省	七四	八、四三二
甘肅省	一三一	九、二八五

四川省	一六一	六七、七二三
廣東省	七九	二九、七〇六
廣西省	八〇	五、一五一
貴州省	五八	七、六六九
雲南省	一五五	一一、七三二
フランス領印度	—	二七五
フランス領印度支那	二五六	一八、〇〇〇
(安南)	五二	六、三九四
(カンボヂヤ)	三七	一、五〇〇
(交趾支那)	三三	二、三三四
(トンキン)	一四四	七、五〇七
シヤム	二四四	五、〇〇〇
海峽植民地	一	五七二
フィリピン諸島	一一四	八、〇〇〇
(ジャバ)	四八	二六、一二五

一九〇一年調査

(スマトラ)	一六六	三、〇〇〇	
チーデルランド領東印度	七三六	三四、〇〇〇	
群島全部			
<small>セレス、モルッカ及びボルネオ ニューギニアの一部を含む</small>			
ボルネオ	二八二	一、七〇〇	
イギリス領印度	一、六四一	二九四、二六七	一九〇二年三月十五日調
チバール	五四	二、〇〇乃至五、〇〇	
ブータン	一七	二〇	
ポルトガル領印度	二	五七二	
セイロン	二五	三、五七七	一九〇二年三月一日調
ペルチスタン	一三四	八一〇	
アフガニスタン	二二五	四、〇〇〇	
ペルシア	六二八	九、〇〇乃至九、五〇	
アジアトルコ	六五〇	一七、五四五	

アジア都府の人口 (一、〇〇〇位)

アジアロシア	チフリヌ	一六一	清
タシクント	一五六		
パク	一一三		
日本	一、四四〇		
東京	八二一		
大阪	三五三		
京都	二四四		
名古屋	二二六		
神戸	一九四		
横濱	一一三		
廣島	一〇七		
長崎	一九三		
京城	二、〇〇〇		
東城			
海峽植民地			
トナン			
シンガポール			
北京	一、六〇〇		
漢口	八五〇		
天津	七〇〇		
杭州	七〇〇		
福州	六五〇		
上海	六二〇		
蘇州	五〇〇		
江寧	三〇〇		
重慶	三〇〇		
寧波	二五五		
鎮江	一四〇		
河内	二五〇		
シンガポール	二二九		

大日本圖書株式會社出版圖書特約販賣所

丸善、嵩山房、青野、内田、長島、淺見、大倉、林、鶴喜、水野、富川、山田、高橋、大橋、岡本、金剛、
 大山、松色、北隆館、東海信文社、森江、杉村、中野、二見、松村、梅原、三木、柳原、石井、前川、丸
 井、石田、百岡、岡島、金川、中村、小谷、中川、金尾、此村、田中、北村、木田、村上、藤井、松田、
 河合、若林、梅原支店、田沼、丸屋、天野、吉見、唐瀬、菅沼、青藤、文林堂、
 大塚、川瀬、片野、安藤、關西圖書會社、小松、萩原、西澤、曾川、今村、宮坂、
 日新堂、丸山、小林、南川、水田、高橋、是洞、中村、長島、水野、水村、平野、
 龍吟、高守、初野、川又、伊沼、鯉井、飯塚、内山、森田、北城、荒井、甲斐山、
 佐藤、梅原、藤崎、佐藤、文德堂、佐野、五十嵐、廣月、市川、日向、鈴木、白
 崎、成見、藤島、東海林、大澤、今泉、伊藤、浦山、小蓮、笠岡、白鳥、川南、
 池田、八木、松色、山本、山崎、最上登、柳田、山川、覺坂、松田、日原、高島、四村、室
 高橋、近、中山、中山、磯野、熊谷、中井、藤浦、石田、水村、木原、
 品川、四村、武内、鈴木、原田、兒玉、藤谷、徳岡、今井、川岡、國
 山、大塚、安藤、白銀、小原、藤川、中原、村田、宮藤、入江、筒井、黒崎、
 向井、土肥、澤木、宮井、淺野、西安、近田、守部宮、古曾宮、
 松井、津野、秋澤、谷、野崎、島英堂、安中、河内、牧川、池竹、石田、博文社、
 長崎、甲斐、守田、野依、梅澤、吉田、久永、豐見城、有馬、

出版圖書概覽

●**倫理學說批判** 全一冊，定價全書五元，郵費四角五分
 ●**修身教科書** 全五冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**修身教授提要** 全一冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**聖諭大全** 全四冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**中學國文教程** 全十冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**女子中等國文** 全八冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**高等女學讀本** 全十冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**漢文新讀本** 全十冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**明治時代文範** 全一冊，定價全書六元，郵費四角五分
 ●**皇國文法釋義** 全一冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**國語法階梯** 全一冊，定價全書六元，郵費四角五分

●**皇國文典** 全三冊，定價全書五元，郵費四角五分
 ●**新式日本文典** 全四冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**日本文學史綱** 全一冊，定價全書五元，郵費四角五分
 ●**國語學小史** 全一冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**漢文通則** 全一冊，定價全書五元，郵費四角五分
 ●**文部省英語讀本** 全五冊，定價全書四元，郵費四角五分
 ●**英語教授法** 全一冊，定價全書七元，郵費四角五分
 ●**教室用英語讀本** 全一冊，定價全書八元，郵費四角五分
 ●**地理學教科書** 全一冊，定價全書七元，郵費四角五分
 ●**地理學教科書** 全一冊，定價全書七元，郵費四角五分
 ●**地理學教科書** 全一冊，定價全書七元，郵費四角五分
 ●**地理學教科書** 全一冊，定價全書七元，郵費四角五分

東京大日本圖書株式會社
 明治三十五年六月正

大日本圖書株式會社出版圖書特約販賣所

●**松本** 丸善、露山房、菅野、内田、長島、淺見、大倉、林、鶴野、水野、宮川、山田、高橋、大橋、阪本、金剛、
 穴山、松島、北隆館、東海信交社、森江、杉村、中野、二見、**大阪府** 松村、梅原、三木、柳原、石井、前川、丸
 菅、石田、吉岡、岡島、金川、中村、小谷、中川、金尾、此村、田中、北村、木田、**京都府** 村上、藤井、松田、
 河合、若林、梅原支店、**奈良** 田沼、丸屋、天野、**和歌山** 吉見、鹿瀨、菅沼、齊藤、文林堂、**鳥取**
 大塚、**島根** 川瀬、片野、**三河** 安原、關西圖書會社、**長門** 小松、藤原、四澤、菅川、今村、宮取、
 日新堂、丸山、小林、南川、**山口** 木田、高橋、基河、中村、**埼玉** 長島、水野、水村、**千葉** 平野、
 鹿野、高寺、朝野、**茨城** 川久、伊沼、飯塚、**栃木** 内山、森田、北原、**群馬** 荒井、甲斐山、
 佐藤、**富城** 梅原、佐藤、**東京** 佐藤、文隆堂、**山形** 牧野、五十嵐、張月、市川、日向、鈴木、白
 崎、**秋田** 成見、藤島、東海林、大澤、**岩手** 今泉、伊保、浦山、**北海道** 小畑、菅間、白鳥、川南、
 池田、八木、松色、山本、山崎、最上、**青森** 柳田、**新潟** 山川、櫻井、松田、日原、高橋、四村、室
 高橋、近、中山、**富山** 中田、磯野、**石川** 船倉、中井、福浦、石川、木村、**福井** 木原、
 品川、四村、**山梨** 武内、**長野** 鈴木、原田、兒玉、**岐阜** 藤倉、德岡、今井、**愛知** 川尻、岡
 山、大庭、安達、**山口** 白銀、小原、藤川、中原、村田、**香川** 宮崎、入江、高井、**德島** 黒崎、
 向井、土肥、**高知** 澤木、**和歌山** 宮井、**岐阜** 淺野、岡安、**山梨** 野田、宇都宮、吉野、**長野**
 松井、津野、秋澤、谷、野崎、**山梨** 瑞英堂、安中、**山梨** 河内、牧川、**山梨** 須竹、石田、博文社、
鹿本 長崎、**大分** 甲斐、守田、野依、梅津、**熊本** 吉田、久水、**鹿本** 豐見城、有馬、

(明治三十五年一月)

出版圖書概覽

- 近世平面幾何學 全一冊、定價金七拾五
- 三角法教科書 全一冊、定價金七拾五
- 法制教科書 全一冊、定價金五拾八
- 經濟教科書 全一冊、定價金六拾八
- 哲學史要 全一冊、定價金八拾五
- 論理學綱要 全一冊、定價金六拾五
- 修辭法 全一冊、定價金八拾五
- 社會學 全一冊、定價金八拾五
- 落窪物語大成 全四冊、定價金壹圓八
- 視話法 全一冊、定價金六拾五
- 海軍圖說 全一冊、定價金壹拾五

謹告

●帝國文學 月刊 定價每冊、金拾貳圓

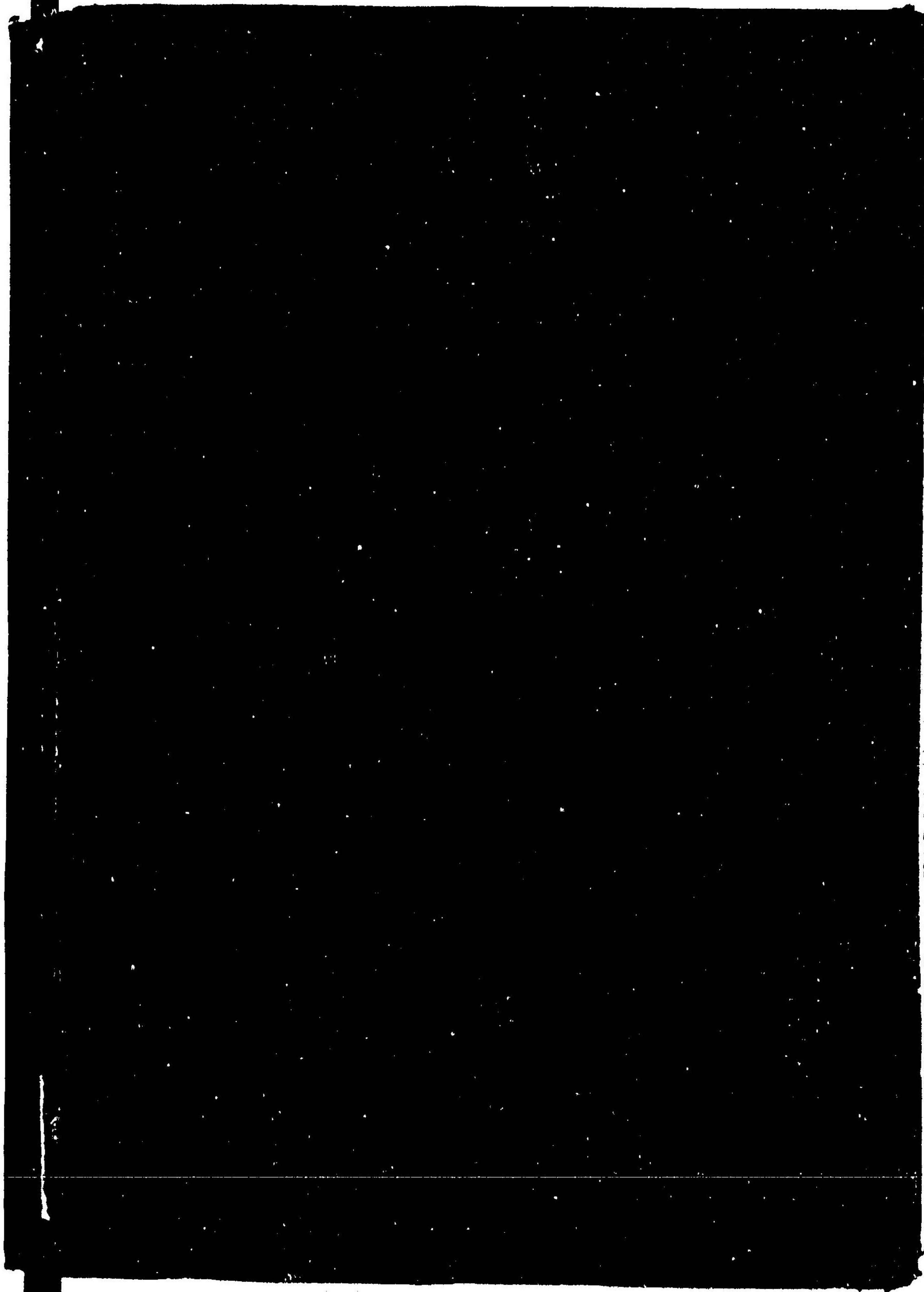
●丁酉倫理會講演集 定價每冊、金拾貳圓

當社は明治二十三年創立以來、文部省及名家大家の編著に成れる各種學校の教科書に、益々なる圖書を出版發賣す。圖書の製本及用紙は最も注意を加へ、堅強耐久を旨とし、兼て体裁の美觀に及ぼす。又見本と賣品とを異にするが如き通弊は當社の斷じて爲さざる所とす。圖書の供給は當社の特に意を用ゐる所。就中教科書は、最も十分の準備を爲し、置くを以て、學期に及んで品切を告ぐるが如きは、決して之れ無きを期す。若し各地の當社特約販賣所に於て高需に應ずること能はざる場合あらば、直接に當社へ宛て御注文あらんことを希願す。當社出版圖書解説附録目録入用の方は、往復圖書にて申込めれば無代進呈す。

東京大日本圖書株式會社

明治三十五年六月

93
261



93
25

